

連城亭隨筆

特別

14

696

185



第一卷 敬慎錄

田功世

皇朝文獻通考

卷之六



特
1 曾
696
185 止

卷之六

特
696
185

近藤恒生

近藤

○客年臨時會之節決議ノ通り將來
管内人口拾万ニ付巡査三十人ニテ所
一ヶ處分ニテ三ヶ所ノ目的ヲ以テ昂
今先ツ十カロニテ巡査二十名亦分トモ
ニテ處ニテ所ヲ設置スヘキモノトシ
該區人民ノ情願ニ因テ古ク起ルモノハ
適宜トシテ取調各大區々長ヨリ
見込書差出候ニテ各出張所ニテ
ニテ實地檢査之上新設場處ノ
儀ハ取極メ尚相伺可申候得共各



七處トモ人員：應ト等級一區別詰割
 等別表之通配置候様可仕哉
 一各七處迄

管内巡查中詰割

第一大区						區
第六	第五	第四	第三	第二	第一	屯号
全	全	全	全	全	二十四	詰割人員
一市 三市 四市	一市 三市 四市	一市 三市 四市	一市 三市 四市	一市 三市 四市	一市 三市 四市 七員 十四員	人員内譯
全	全	全	全	全	日勤 七員	詰割
九市區 傳馬所	八市區 橋所	六市區 赤塚所	四市區 本所三月	七市區 納屋所	二市區 押切所	地名

詰割中
 アルハ巡村
 (休)アルハ
 休暇ナリ



大區第八	區大七第			區大六第			區大五第		
第十三	七分	七分	第十二	七分	第十一	七分	第十		
七	六	六	十三	九	十二	八	十二		
四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	
三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	
休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	
一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	
各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	
一 東 每 村	六 東 岩 村	四 半 田 村	九 橋 須 賀 村	六 解 虫 江 本 町	十二 津 寫 村	十一 稻 葉 村	十三 一 之 宮 村		
				前 ヶ 須 村	神 守 村	起 村	下 祖 父 江 村		

區大第四第			區大第三第			區大第二第		
七分	七分	第九	七分	七分	第八	七分	第七	
六	六	七	六	六	十	七	十	
四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一	四 三 二 一
三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一	三 二 一
休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤	休 出 勤
一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三	一 二 三
各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名	各 名 名
十二 北 方 村	七 小 折 村	一 稻 置 村	十五 瀨 戸 村	三 下 小 田 井 村	十一 小 牧 村	五 東 起 村	十六 鳴 海 村	
		岩 倉 村			八 田 新 田 村	岩 高 村	御 器 所 村	

大區	大區	大區	大區	大區	大區
計	第五	第十	第十五	第二十	第二十五
分	分	分	分	分	分
十五	二十	九	十二	十六	十九
十五人	三百八	九	十二	十六	十九
四	三	二	一	四	三
三	二	一	四	三	二
二	一	四	三	二	一
一	四	三	二	一	四
二十名	五十名	百〇名	百〇名	百〇名	百〇名
日勤	出勤	出勤	出勤	出勤	出勤
三十五名	百〇名	七十名	九十名	九十名	九十名
市油	新城	富岡	豊橋	田原	三十五ヶ所

大區	大區	大區	大區	大區	大區
第十一	第十	第九	第八	第七	第六
分	分	分	分	分	分
一	一	二	一	一	一
七	八	十	十二	十六	十八
七	八	十	十二	十六	十八
四	三	二	一	四	三
三	二	一	四	三	二
二	一	四	三	二	一
一	四	三	二	一	四
三十名	五十名	百〇名	百〇名	百〇名	百〇名
出勤	出勤	出勤	出勤	出勤	出勤
三十名	七十名	九十名	九十名	九十名	九十名
鳥羽	尾騾	藤川	崎宿	下中	濱村
羽村	一色	岩津	岩津	岩津	岩津

○本月二十日晴作久島に巡り別所長、北中田五三三の嶋

内巡邏東西凡二十丁南小四丁日高六百金石テ敷

三百三十一戸内社三ヶ所寺院四ヶ所但當土人口千三百三

十二人男七女五人季枝一ヶ所便舟三艘定價一人

四ヶ所吉田海海三哩南、篠島日間ヶ嶋ホッ

臨三何レモ里程一里ト云。別所長ハ藤井伊太録本と名

兵隊ノ兩人、多擔ある又大島辨天ノ小島ホアリ

潮下ハ步行、テ岸ト云是ハ作久島ノ附屬ナリ右

弁天ノ利生赫々タル神ナリトテ諸人祈願多ト

云産物ハ海鼠腸 生海鼠 草一草ナリ

○衣王堂り何良
古ノ名所ヲ見

後
山
系

海鼠腸ヲ在ル^ル引クト云 全山鳥細圖 副長
ニ抱シ置ク^ク不日遠送入覽ニ供ス

○幡豆那^ヲテ 隱賣^ヲ母^ヲ「マシヤコリヤ」又「ビンロウ^ニト

モ^モビンロウ^ビハ^ハ浮種^ノ内^ニテ^テダ^ダ黒ク^クナラ^ラヌ^ト言^言ハ^ハス

○本月^一朔^十七日^日會議^ス 岡^岡出^出張^張家^家ニ^ニ出^出張^張後^後

卯^卯七^七時^時返^返散^散性^性カ^カ萬^萬造^造ニ^ニ向^向ス^ス 家^家内^内健^健康^康四^四能^能在^在

孫^孫々^々收^收追^追々^々生^生ル^ル 當^當時^時ニ^ニ幸^幸校^校ニ^ニ昇^昇堂^堂單^單語^語ニ^ニ向^向

同^同又^又ホ^ホ暗^暗誦^誦 實^實ニ^ニ感^感心^心當^當時^時ノ^ノ書^書初^初ハ^ハ「ノ^ノ王^王ニ^ニ

一^一」[」] 今^今既^既見^見事^事ナ^リ 萬^萬造^造マ^マ婦^婦 夢^夢ニ^ニ申^申候^候 萬^萬事^事

悉^悉旨^旨ニ^ニ浦^浦山^山敷^敷存^存ズ^ズ 萬^萬造^造成^成ニ^ニ當^當一^一月^月二^二日^日三^三日^日早

天^天ヨリ^{ヨリ}檜^檜垣^垣 柳^柳 如何^{如何} 春^春ノ^ノ持^持遊^遊シ^シ 又^又青^青柳^柳ニ

幸^幸甚^甚 為^為恨^恨ホ^ホ 其^其他^他祝^祝ノ^ノ品^品ニ^ニテ^テテ^テ 柳^柳ハ^ハ傍^傍ニ^ニ在^在ト^ト傳

馬^馬所^所通^通リ^リ 擔^擔ヒ^ヒ 歩^歩行^行 初^初覺^覺セ^セリ^リ 趣^趣々^々 跡^跡ト^トリ^リ 人^人ノ

山^山ヲ^ヲナ^ナシ^シ 大^大ニ^ニ高^高ヒ^ヒ 有^有リ^リ 素^素ヨ^ヨリ^リ 利^利シ^シ 不^不見^見 風^風 靡^靡リ^リ 旨

ト^ト心^心アル^{アル}者^者ハ^ハ 其^其中^中 風^風ヲ^ヲ 感^感賞^賞ス^ス 丈^丈シ^シ 捨^捨垣^垣 柳^柳

ヲ^ヲ 捨^捨垣^垣 柳^柳 新^新ニ^ニ 正月^{正月} 禁^禁裏^裏ニ^ニ 糸^糸内^内ノ^ノ 柳^柳 門^門ニ^ニ

捨^捨垣^垣 柳^柳 餘^餘草^草子^子ヲ^ヲ 裁^裁ヒ^ヒ 供^供符^符ノ^ノ 者^者ニ^ニ 高^高ヒ^ヒ 中

柳^柳ハ^ハ 風^風 口^口 金^金アリ^{アリ}テ^テ 仰^仰リ^リ 熱^熱シ^シ 乞^乞フ^フ 者^者ニ^ニ 是^是 又^又ム^ムク^ク

ル^ルト^ト 是^是ハ^ハ 諺^諺ニ^ニ 下^下馬^馬 評^評シ^シ 關^關口^口ニ^ニ 爲^爲ス^ス 穩^穩密^密ノ^ノ 者^者

勤^勤ル^ルト^ト 云^云 又^又此^此 極^極ハ^ハ 御^御印^印 位^位 毎^毎ニ^ニ 更^更ニ^ニ 被^被下^下シ^シ 日^日

勿論家柄より一室ナリ上ノ極ニ為ル即然リ
 凡コト萬事此年ノ際上ノ京口法ヲ託リ
 本七年具置シ先取リ右寸ニ製造一りニ
 初賣ニ捲ヒ出シハ手柄ナリ野人ハ
 後明者氷室長多ハ茶舎ノ棚ニカザ
 之ヨシ又和歌ニモヨシト云ヘリ

田舎圖ヲ誌

凡前ナリ勿論
 一前ニテ居間
 アルコトラス

四尺余



杉ノミサミテ
 割ラス

○本七年一月東京ノ京ノ事ナリ
 之新ナリノ事ナリナキトヨシ萬事ノ
 事ナリ

○明治六年^{其月}山梨縣懲役中絶亡
 外一人押縛方人ナリ

○^{其月}山梨縣懲役中絶亡
 外一人押縛方人ナリ
 巡大賀鐵山ニホ此本石黒義辰云ホ
 昔信常夜旅亭ニホ此本石黒義辰云ホ
 雨押トトスルヲ守持ナカク右ノ事
 巡大賀鐵山ニホ此本石黒義辰云ホ
 昔信常夜旅亭ニホ此本石黒義辰云ホ
 雨押トトスルヲ守持ナカク右ノ事

西掛り候より何分候欠の消テ一寸先キウ分分ま
かぬニ歳以のハ敷テ所ノ手疵ヲ養リ一寄
押ト毎連日名基疑テ台々抜力候方終ニ事迄
共取込ガレ舟橋石里由敷ヤ一器完ヲ持テテ持
テテ移候モツ踏込ハ甚疎漏ハ日
口エカラブ匿テ口設主ヨ身ハノ一大事件ハ日
ニ人ニテ一人モ取付ハ残念ナリマレシニ返捕
人負探出ホケ本候ハ共在ノ之家ニ未タ終
既ホ分大加ハ歳ハ日里ハ引取テ療
養ハ四能ハ先吊人テ候ハ未タ運テテ一ハ日

ニナリテ...

一 竹寺巡査

大賀 鐵二郎

其方儀ホ月ノ三白山梨知ニ懲候中一巡走
候ル途ニ殊ノ果道外モ人跡跡ヲ得三河
岡額田郡石原村ニテヲテ追捕ハト
スルノ際彼ノ両腕虎口ヲ持テ拒捕ハ候
所ニ疵傷ヲ受テ身ハの療治料金七圓
下賜自事

明治九年一月...

...

○一月十九日十六區下區楠豆郎船主中川を至る
船九人乗組漢椽(漢)と云ふが八時比お
多即大月お字か十中(中)と羅風(風)の破舟
右(右)の内五人助命外人(後)名あくる者
海中(中)に死(死)離(離)る(る)近(近)お(お)漢(漢)舟(舟)に
共(共)難(難)艘(艘)四(四)能(能)出(出)探(探)索(索)中(中)に(に)日(日)と(と)家(家)加(加)ハ(ハ)明(明)月(月)
マ(マ)カ(カ)ニ(ニ)何(何)レ(レ)死(死)離(離)大(大)月(月)お(お)引(引)揚(揚)ク(ク)加(加)
二(二)甲(甲)一(一)之(之)分(分)至(至)詰(詰)一(一)等(等)出(出)查(查)西(西)お(お)後(後)堀(堀)三(三)等(等)
此(此)お(お)後(後)お(お)返(返)首(首)出(出)法(法)検(検)視(視)お(お)爲(爲)ル(ル)死(死)名(名)を(を)著(著)
カ(カ)十一(十一)大(大)區(區)お(お)正(正)隔(隔)豆(豆)郎(郎)一(一)色(色)お(お)

三百九十五番物屋住

雜業

於鈴木忠吉

二十七年三月

口下小區生田お

百番物屋住

下お吉の長男

下村士喜

十八年五月

口お木崎お

百番物屋住

深見三郎の長男

深見海年

二十三年九月

口酒子等

三十七番地

杉野

杉野

二十二年三月

○二月一日陰曆正月三河國幡豆郡五小區鳥羽邨村社式

外神明宮小祭典大祭事曰九月執行献火予出張中ニテ幸ヒ見

視故ニ其景況ヲ記載ス太ル程ニ午後第六時過キ

境内點燈間ナリ詞官掌拜履ニ昇階暫時

祝詞右畢テ是ヨリ献火ノ行粧則真先ニ別戸

長深谷義節詞官掌カニジアクジ是ハ別ニ圖ラテテホス

キ凡テ厄年ノ者出新一甫間塩濱ニ至リ垢離ニテ具身ヲ清

神罰ヲ受ルト云本三ツラクジノ方里村西ノ伊藤伊三郎ハラヒ三十

人余本日潔齋ノ志有者勤ル外カキノ者何レモ神夜ニテ

如ク物ヲ社リ故ニ肩北月ニ神明ノ文字アリ體ニ奉納或ハ若イ

者村中杯ト袖被ニアラレ何レモ火中ニ運動スル体面白キアリ

後如系

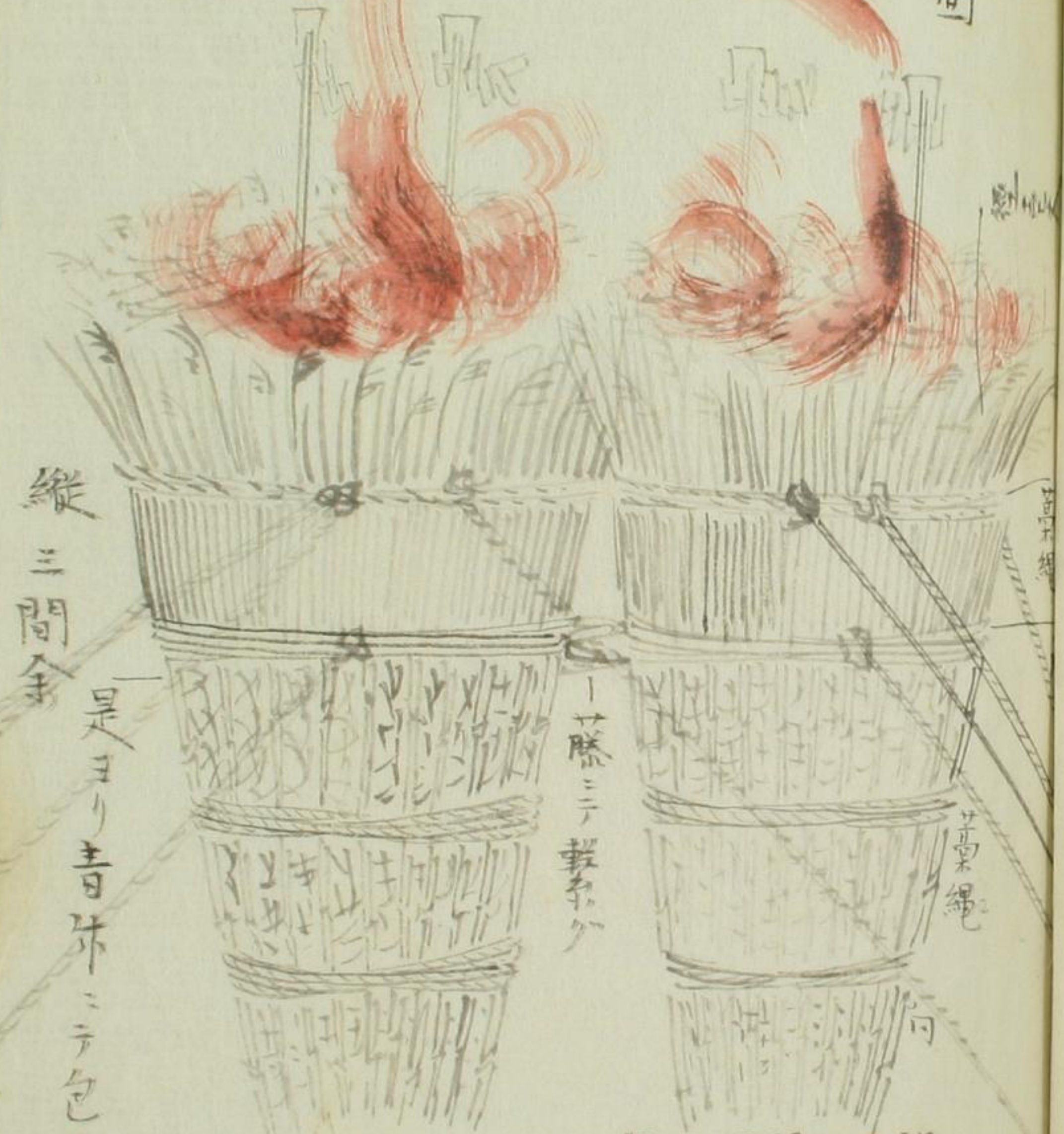
ナリ(ハラヒ)ハ境内ニテ神招櫻其餘ノ雜樹ヲ伐木ニ各自一本先手ゴロノ
 物ヲ持テ消滅ス(サバキ)サバキ棒ヲ持テ式ヲナス則(サバキ)ハ當日重
 役各ニ列ニテ社前ノ中坂ノ之ノ方位ニ大ナル(スバキ)カニシ
 ト唱圖ノ如ク(スバキ)ノ内ニ眞木ヲ建ル生木ニ凡三間程枝葉ノ冬ニテ
 地下ニ埋メ若テノ芝草ヲモテ包ミ詰ル
 二本建タル方ニ至リ(サバキ)ノ者自己ノ持場
 ニ寄リ尚亦祝詞アリ夫ヨリ清火塩竈ノ炭ヲ削リ葉ニ
 入燧石ヲモテ打掛ト
右葉ヲ振リ自然火發リ直ニ一抱葉ヲ取リサバキ棒ノ先キニ差シ
 カニシアリシ一棒ニスバキ)且入ル即時燃上リカ第火勢盛ニナリ
 ヲモテ火移直ニ天上ニ昇煙ニ漸次燃上半バ隆
 ノ頃ハ一村ハ言ニ不及隣邑ニテモ火光海上ニ照合
 也益ニヒトシ其(スバキ)総丈ケヲ十二ヶ月ニ片取り
 三分ノ一ニ火移スルヲ四月ニ假シ一之捧四月ニ取り
 ニノ捧ハ月

ミノ捧ハ三月同ト云
 又捧ヲ入ルト云

火増ニ募ル薪ノ如ク八月又同シ三月ニ至ル
 三ノ捧ヲ入レ引廻ス隨ヒ火勢彌強クアタリ
 火事ノ場ニヒトシ自然眞木顯レル哉否(サバキ)ハ
 ラヒニ者共互ニ我先木眞ヲ抜ント爭フ喧嘩ニ
 當年ハカニシノ方第一番採取リ神前數ハ
 献納ス續テアクニ抜キテ神納是ニテ祭曲
 畢ル且(スバキ)献火中火勢ノ強弱竹木ノ
 燃音煙色并ニ煙縦横運動ヲ村内ハ
 更ナリ數万人見物是ヲ見テ年内風雨

フリジ之面
里村西

カシジ之面
山村東



縦三間余

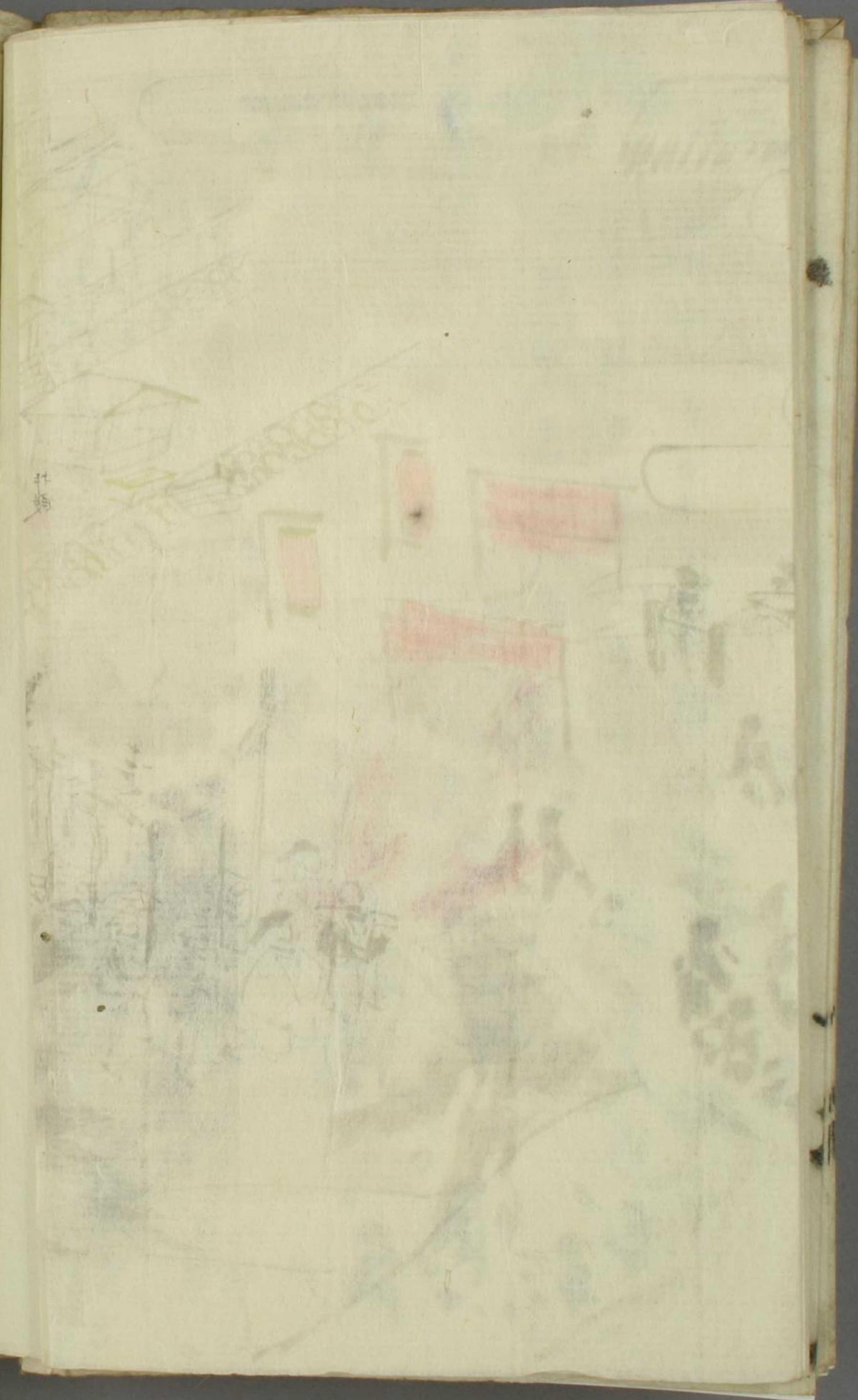
是ヨリ音外ニテ包ム。

一藤ニテ繋ガケ

黄繩

徑三間余

地面ヨリ下一丈
又程埋ル定ニ繩
ヲモテ七五ニテ
間月ナレハ十三ヲ
用上薪火ノ竹節
是ヲ燃カレヨリ
板ヲ赴トス



夜景全番



雷震ヲカトリ豊饒凶耗ヲ計リ故ニ農
事ニ就リ葦ハ遠近ヲ不訕而庶民群山
と各自吉凶ヲトク敏村ス



井殿

齋所

後
如
添

夜景全番



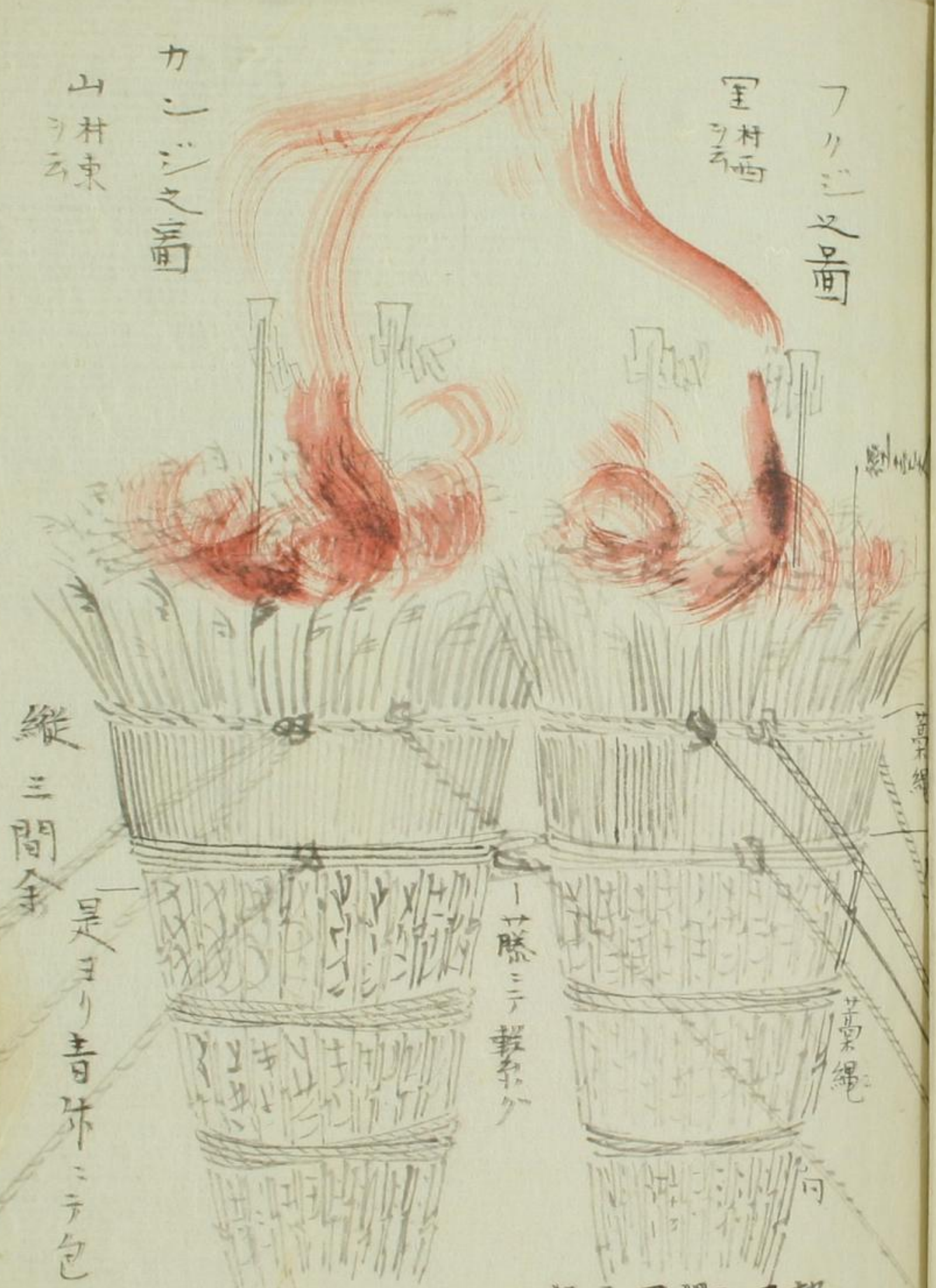
雷震ヲカトリ豊饒凶耗ヲ計リ故ニ農
事ニ就ク葦ハ遠近ヲ不然而度民群山
と各自吉山ヲトヒ飯村ス

齋所



カニジ之面
山村東
ヲ云

フリジ之面
山村西
ヲ云

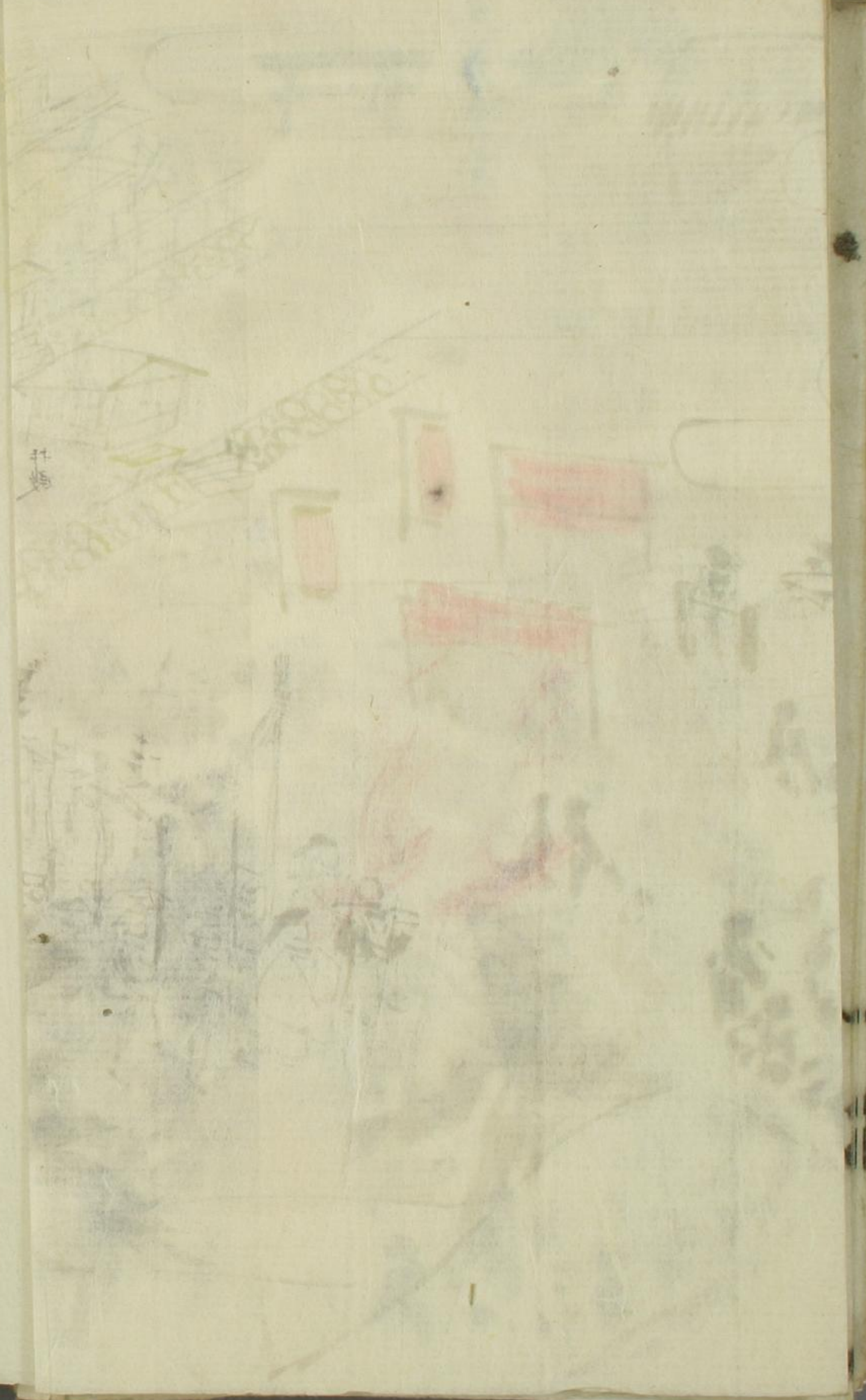


縦三間余

是ヨリ音外ニテ包ム。

徑三尺余

地面ヨリ下ニ壹
尺程埋ル定ニ電
ヲモテ七五三ヲ結ビ
間月ナレハ十三ヲ
用ニ軟火ノ竹節
是ヲ燃サレヨリ
抜ヲ起トス





ハシ



ノ

サバキ棒ノ圖



澤テ繩鉄竹節ヲモテ
カリシ立木ニ敷キガ

松賊

長ニ商程大移ノ節ノ圖ノ如クシテ世ナリナスカニ
シフクビノニ人扱フ

三ツ菱



郵便

蒸氣船

東京横濱
每月九廻
出帆

尾張國師崎港

三ツ菱友商會出張所

長三商程大船人等
已フクビノ二人扱



御威

御威

郵便



家氣新祭

九年二月

四日市	午後四時出	二日	五日	八
師哥	午前六時入	二日	五日	八
	午後四時出	二日	五日	八
橫濱	午前四時入	四日	七日	十日
	午後四時出	四日	七日	十日
品川	午後二時入	四日	七日	十日
	午前四時出	七日	十日	十四
橫濱	午前六時入	七日	十日	十四
	午後四時出	七日	十日	十四
四日市	午前四時入	九日	十二日	十六

○東京日日新聞 一月二十五

明治九年一月十八日 市歌會歌

新平望山

市歌

あたらしき山をたむけしるるはなをのぼりて作しんる
白雲空

あたらしき山をたむけしるるはなをのぼりて作しんる

あたらしき山をたむけしるるはなをのぼりて作しんる
松橋 絹

日 教員

市田 又 確

附名 氣 菱 三 便 郵

- | | | |
|---------------------------------|------|-----|
| 東京丸 | 名護屋丸 | 蓬萊丸 |
| 豊嶋丸 | 敦賀丸 | 九洲丸 |
| 玄海丸 | 瓊浦丸 | 玄龍丸 |
| 新瀉丸 | 社寮丸 | 快順丸 |
| 兵庫丸 | 黄龍丸 | 平安丸 |
| 太平丸 | 青龍丸 | 成妙丸 |
| 東海丸 | 千年丸 | 浪花丸 |
| 扶桑丸 | 明石丸 | 繁榮丸 |
| 品川丸 | 猶龍丸 | 天祥丸 |
| 廣嶋丸 | 赤龍丸 | 快鷹丸 |
| 子 ^ワ 々 ^タ 號 | 錫懷丸 | 海運丸 |
| 高砂丸 | 駿河丸 | 向陽丸 |
| 金川丸 | 安全丸 | 万里丸 |
| 磨田丸 | 千里丸 | 有可丸 |

尾張國 三菱商會出張所

明徳... 今御... 御... 御... 御... 御...

口生... 全... 御... 御...

新... 御... 御... 御... 御... 御...

松本... 御... 御...

主... 御... 御... 御... 御... 御...

三河國幡豆郡... 寺如月... 平坂... 御... 御... 御... 御...

六小... 御... 御... 御... 御... 御...

ヨリ... 御... 御... 御... 御... 御...

御... 御... 御... 御... 御... 御... 御... 御...

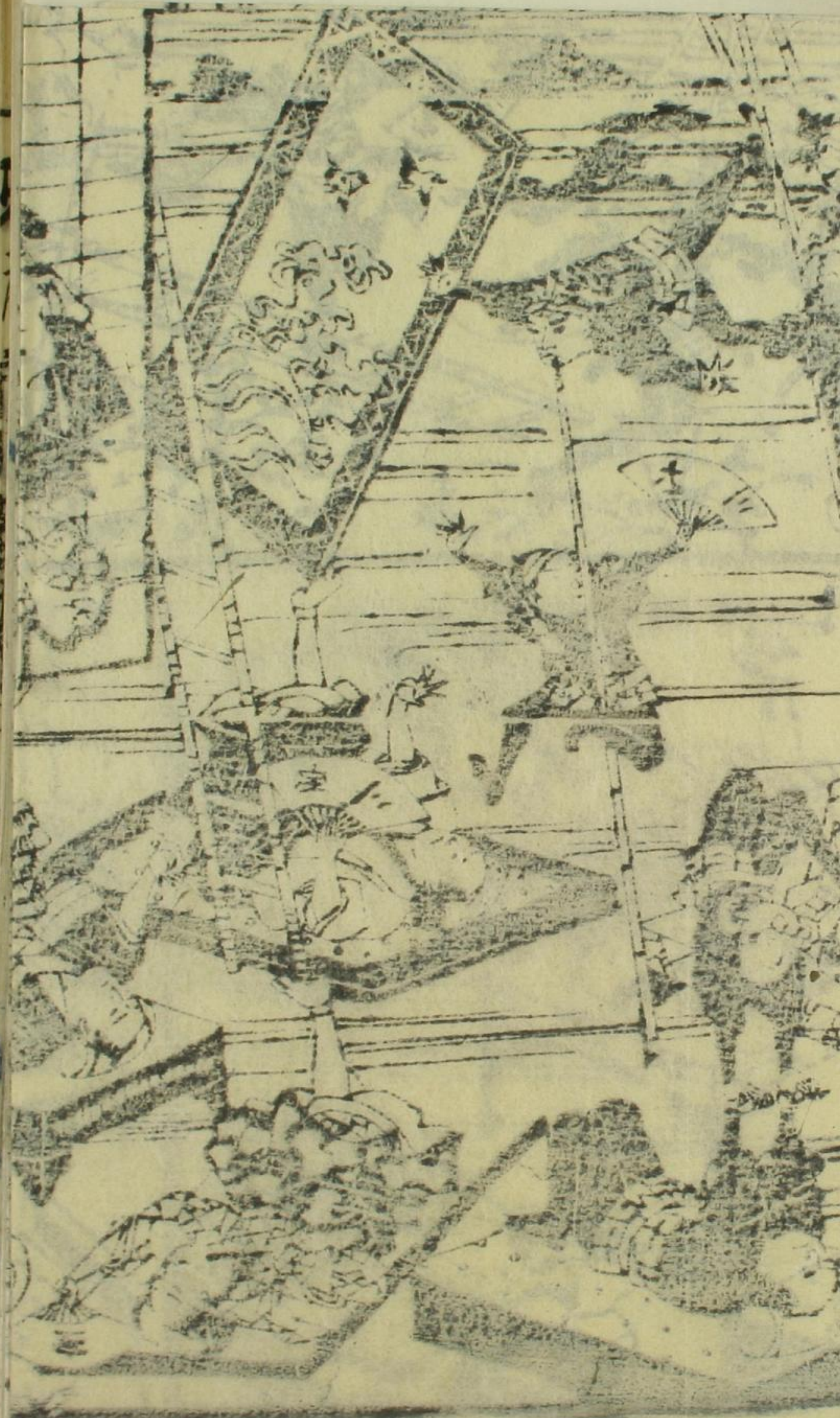
○ 宇... 御... 御... 御... 御...

藝... 御... 御... 御... 御...

後... 御... 御... 御... 御... 御...

石... 御... 御... 御... 御... 御...

二月... 御... 御... 御... 御... 御...



若妻 寶川 長吉
 上の 寶川 長吉
 大夫 寶川 長吉
 上の 寶川 長吉
 若妻 寶川 長吉

○豆藝真行

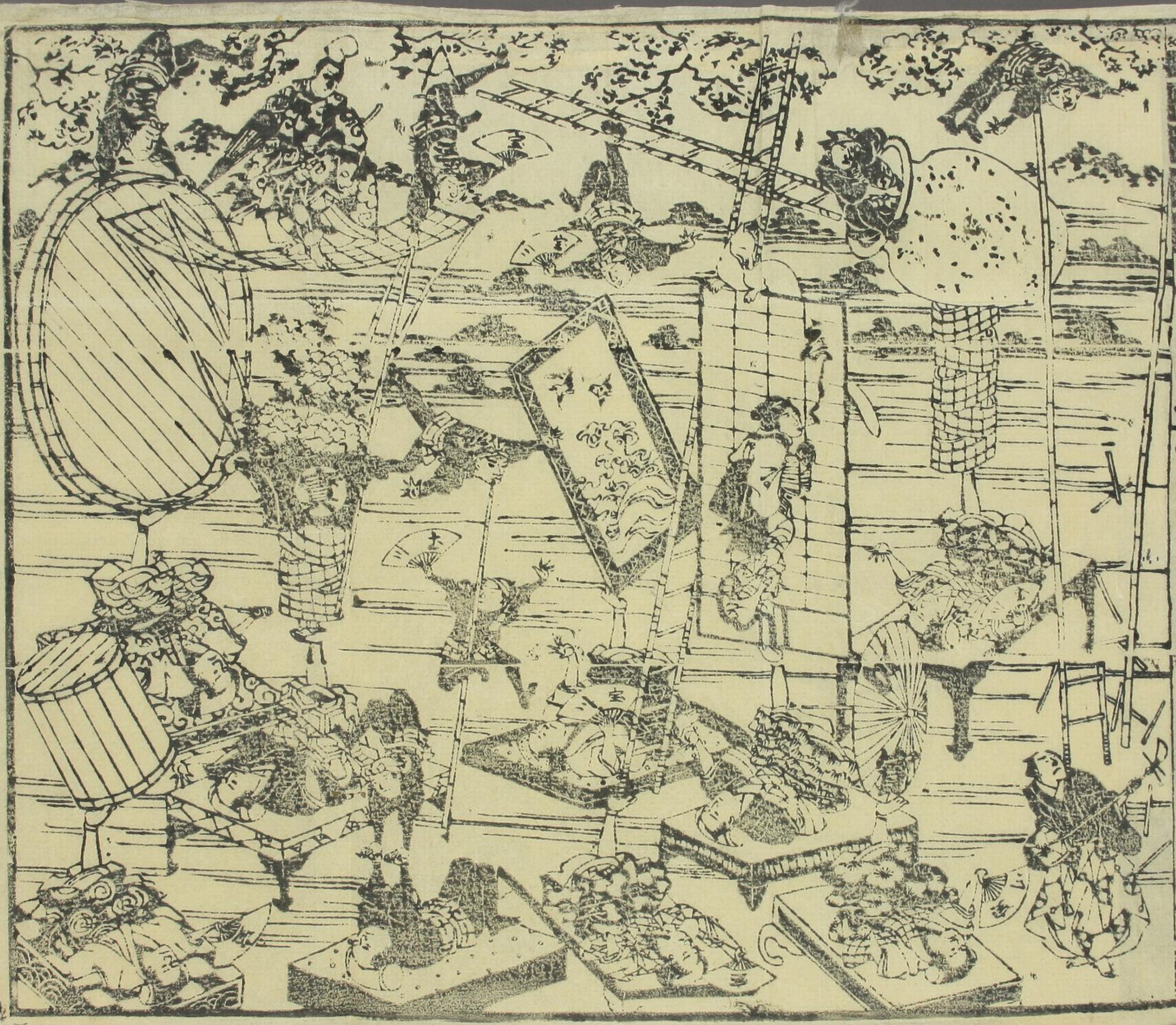
東市原下町四丁目三十三区
 小石川大門丁十六番切

藝人 寶川 仙吉

右に今ふ 嶋豆郎 平坂お右左衛門 控ニウケテ

月八日ヨリ 十三日迄 晴三五ツノ 男興行

本产壹人ニ斤壹式 丑座也

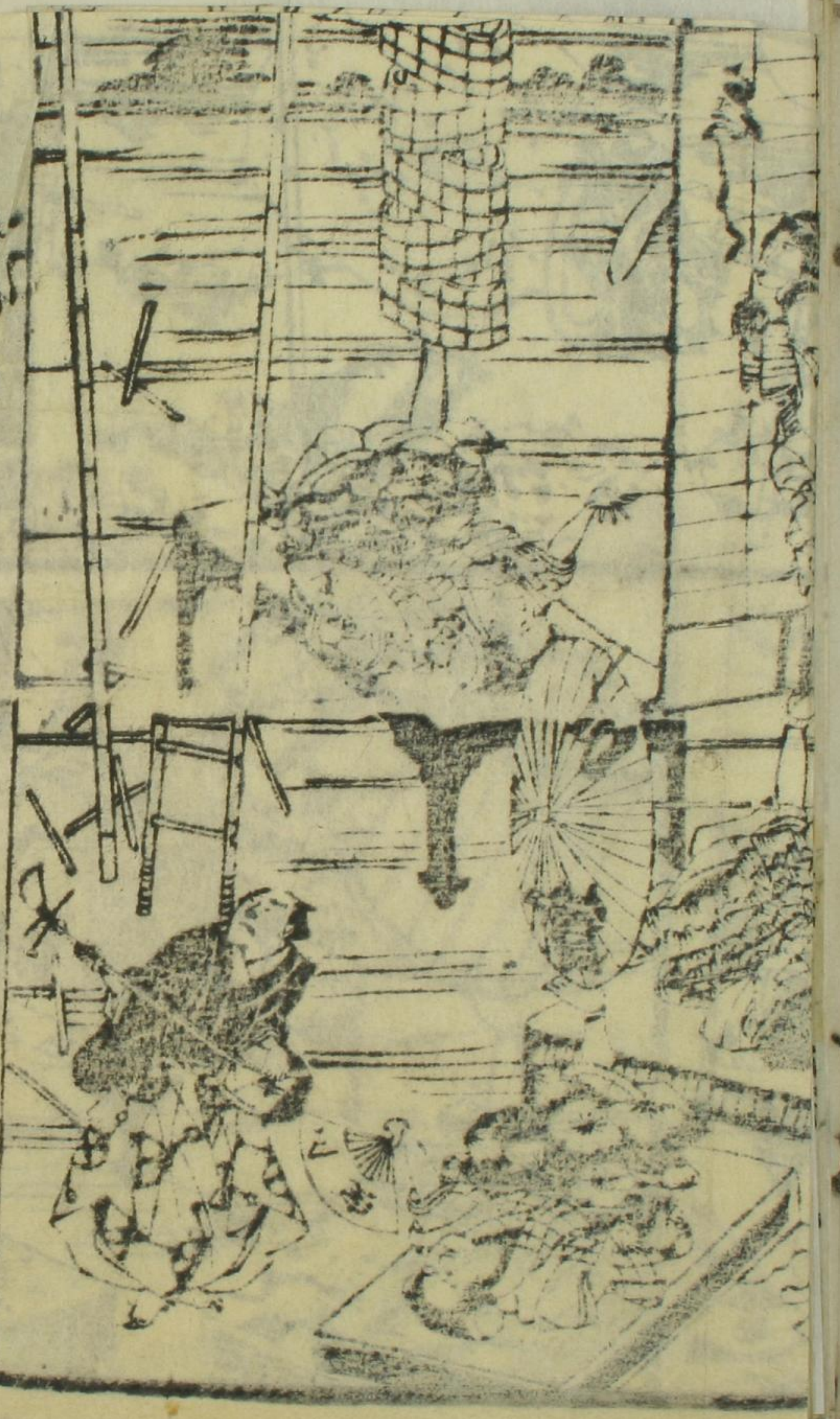


天竺
東の地獄
 後

若妻 寶明 長吉
 上の 寶明 長吉
 大夫 寶明 長吉
 上の 寶明 長吉
 若妻 寶明 長吉

東市下町四丁目三十五番
 小石川大門丁十二番
 藝人 寶明 長吉
 石川平政お右左衛門様ニテカラホ
 月八日ヨリ三日迄時三五クニ興行
 本戸主人ニテ壹式上座也

2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100



備前

大正宗

菊 齋 堂

備前

備前

備前

備前

備前

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

後 山 系

三津浦
三津浦
三津浦

尾上重盛

尾上重盛
尾上重盛
尾上重盛

尾上重盛
尾上重盛
尾上重盛

長久保
長久保
長久保

長久保
長久保
長久保

長久保
長久保
長久保

長久保
長久保
長久保

津邊守

津邊守

津邊守

○西尾中町定小屋

西尾中町定小屋
西尾中町定小屋
西尾中町定小屋

二月十二日願見直羽十三日ヨリ日暮上日ノ間演戲

具行
具行
具行

外題 曾我十中悟

市川由十郎 市川花枝 市川長七郎

市川松若 市川久太郎 市川芝若

市川松若 市川久太郎 市川芝若

○備前郡洲崎町お字い演のり二月十三日ヨリ

時方三十日ノ間あ撰具行 永三

め右ニモヨリニキ 是文字ノ通 念ノ節字五ノ

○三列岡崎居住士族某田藩ハ夫婦兩人而
随分自身生もよむをいふ家が亭主なり而
者ハソツコシ家事とやゆ事ハかゝる而己
ならば自分ハ大酒ヲ好ミ殊ニ登樓とも
教ハ遊湯ニ志ス候リ終ニ今日の活
計も難立ツツハ奉還金も吞ミ代ニ
おし深き御主意の御見承と申しな
い細き煙も漸々ながなが本月を以て
の頃某を月向にて名古屋赴らん
着弊の冬門出ビハと細君ハ留め

其風体見苦敷きことふ世間ニももつら
し私ノ行届らざる指差れと受るも
そのなきと新しき布の子と出し石
替りとい言ハ夫を不思議をれつ若し
哉り心こころえ如何にして典借せし
と細君ノ曰於まへり日々と酒女
を買かき都度ニ其財宛の多
ニ貯置き積り溜て右布の子整ま
しむ其餘が貳銭程あり外ハ
是も遣まらざればと出せしが

め何ニモワラヒキ 是文字の通をとり名号ナリ

後 四 係

ずんが真主も誠心と感服——一時言
語もなかりしと 藤原の者居合は其仕末と
 是細君に至り而美婦——しそ女の道ハ云
 及ハ平素行帷ハ人ニ過れ貞操尊
 くしそ近隣其行と譽言するハな——頃
 日轉居の節も内輪と察し——細君の志
 と思ひ蒲團ニ投貸遣せしと且又
 父母存在するハ定めし——至存りそ——
 大政の御賞もありて新間エモの
 であり外と本月三日第四課岡崎出張

所、出頭し御旅亭綿田 細君ノ行帷と遊
一兼詔ニテ本人
 感服し此嘯するを誌

○ 二月十五日名古屋お坊



あり何ニモワラヒキ 表字の通知の事 五十一

表 係

聖旨

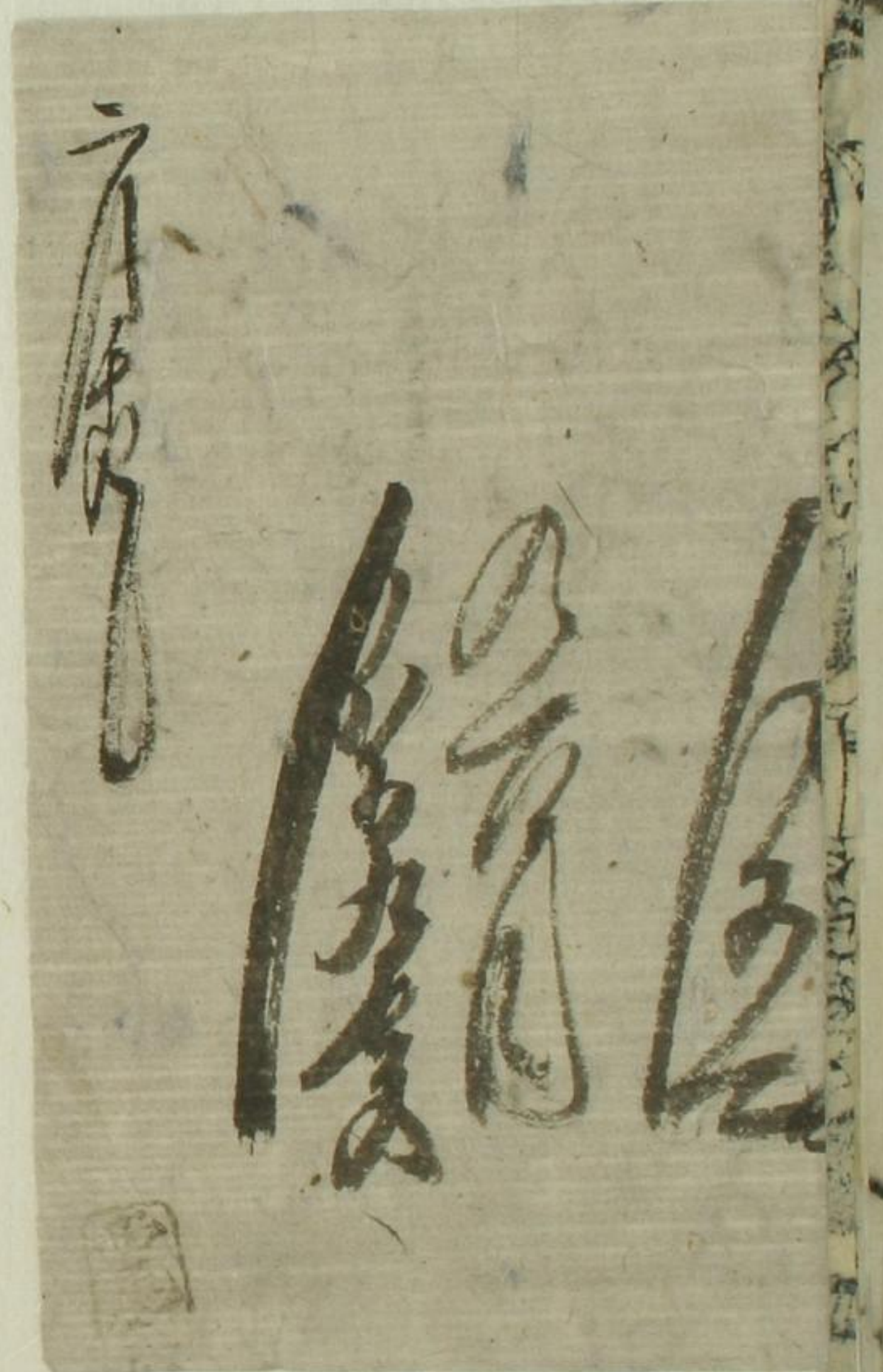
太素

菊

石巻市... 丹波市... 丹波市... 丹波市... 丹波市...

右... 如... 左...

丹波市... 丹波市... 丹波市... 丹波市...



あめ... ね... の... の... の...

ハ何ニモヨクニキ
表字ヲ通知スル
事

三洋	中村	尾上	長
三洋	中村	尾上	長
三洋	中村	尾上	長
三洋	中村	尾上	長

三洋	中村	尾上	長
三洋	中村	尾上	長
三洋	中村	尾上	長
三洋	中村	尾上	長

嶋豆町 甲村
天野三代助
二十七年

口
沼本安太郎
二十七年

口
沼本安太郎
二十七年

口
沼本安太郎
二十七年

焼二人

林

の祿

十六年一月

管知郎明海お

杉伸五郎

八年八月

右者本月二日は前二所は園山守傳馬
所二百四十番物席代々守屋平助幸左
居宅より失火前名に者共火焼臥罷
在一時狼狽終に炎上煙りに巻かれ
焼死此鎮火下前七所は所引物々頼

焼

か細柳五郎

高野五郎

高野五郎

高野五郎

高野五郎

高野五郎

高野五郎

高野五郎

高野五郎

高野五郎

ハ何ニモワラヒキ 毒字の通 知の毒字 五十一

後 口 係

紅世系入

○

三河國額田郡中丈區三ツ色
鬼原村住同区柿平打御社

詞書年

後死人

五竹園 林正 越守本

当三十四年

三河國額田郡中丈區三ツ色
打御社吉持殿内御書三ツ色
柿平打御社

○

三河國額田郡中丈區三ツ色

ハハ何ニモヨリエキ 毒字ヲ通知スル事

後 詞書年

水死人

因 田 善 吉 九 郎

六十五年二月

右ハ明徳二年十月六日ハ右田國田後ハ善
和知字傳ア東水吐川於テ水死
是ハ碎倒ニ墜リ道テ板橋ヲ跨ハズニ
了ニ水ニ溺レリ

三河國岡崎郡見立町

田 善 吉 九 郎

行 例

男 三十一歳

夫ハ甲ノ人ナリ程良里身自良以
若中傳止齒至持江邊於女多
身ア人福解サ藍田ニ信木傳
後事傳々白木傳ニ人善ノ後
其後傳ハ江御軍ヲ善ノ草
靴ヲ履キ口ナ字ニ傳元火葬
地ニ其ノ入ル家内ニ雨ノ既ニ信
向ニ其ノ家死ス

三河國岡崎郡見立町

ハ明徳二年十月六日ハ右田國田後ハ善和知字傳ア東水吐川於テ水死是ハ碎倒ニ墜リ道テ板橋ヲ跨ハズニ了ニ水ニ溺レリ

田 善 吉 九 郎

一 瀕死人

女兒

在二十二年十二月五日午時於御神田水
字小川御一極身無病禱願之子
聊度指ニ差色初毛ニ傳七島首ニ有
作向ニ此身ニ在也

三川國乃公海忍白家河

行倒回身本兵式ニ新整其廿九日
右ハ九年集禱願其廿九日
与尸有也小川西向お果ニ有也

三川國額日記係母也四十八日

其任平氏

縊死

小川河田幸吉

二十五年五月

昨ハ年日身ハ病死其ノ容新ク止
行ハつテ有也在程ニ良字あり也
つり身ハ全ハ北死程ハ始ニ
上ニ其ノ身ハ河本あり小川
サリ以テ縊死ス

ハ何ニモワラヒキ 是字リ通知ニ有也

發 係

平河齋
眞聚園丹下張小林

○西尾中所戲場豊榮座ニツリテ三月二十日ヨリ一週間迄
淨瑠璃真行藝人

若太夫 假名太夫 榎太夫 長枝太夫
豊造 新造 文治郎

○三河国碧海郡西端村榮願寺什物蓮如上画像三月二十六日
ヨリ四月二日ニテ 膳豆郡 池頭村慶徳寺ツリテ開齋

○下野国河内郡西原村觀専寺什物親鸞聖人木像岩代
国信大郡福島町康善寺什物親鸞聖人木像三月
廿七日ヨリ四月二日迄 膳豆郡 市子村願海寺ツリテ開齋

○膳豆郡市子村ニツリテ二月二十日ヨリ晴天六日之開齋

ハ何ニモワラヒキ 甚字ヲ通知スル者ナキ

踊真行藝人

高橋 多の 仔彦 子に

岡田 多の 中村 子の

岡田 多の

高縣第一大尾三小三三河岡備豆郡西尾

山下町三三番地居住

曲長丹戸堀前業

一 変死人

近々勝 嘉 十

九年四月二十二年二月

但全身無疵、晒し布禪、肌衣紺編、紐々、綿、
伴、着、用、之、胴、繩、ヲ、以、帶、ト、ナ、シ、手、拭、リ、冠、リ、丹、子、倍、例、
ニ、ウ、チ、テ、頭、ヲ、西、ニ、打、付、シ、相、果、罷、在、ル

右同人、弟、同所、三十四番地居住

曲長丹戸堀前業

一 亦死人

近々勝 甚 藏

九年四月二十二年九月

他全體無疵、晒し布禪、肌衣紺編、紐々、綿、
着、之、并、之、紺、股、引、ヲ、履、キ、繩、ヲ、以、テ、帶、ニ、習、ハ、手、拭、リ、
冠、リ、同、上、兄、嘉、十、死、屍、倒、シ、頭、ヲ、西、ニ、打、付、相、果、罷、在、ル
備豆郡西尾山下町上番地曲長新泉移ナル者自宅丹
水不都^合、丹、公、ハ、三、月、廿、七、日、ヨリ、町、内、右、両、名、之、者、存、入、新

設罷在ル、本、月、二、日、ニ、至、リ、凡、堀、揚、ケ、既、ニ、十、五、番、第、四

時、移、リ、深、サ、數、丈、四、尺、余、堀、下、ケ、丹、底、ニ、ウ、チ、テ、ヲ、ト、ゴ、ニ

伊、言、ナ、リ、四、里、テ、^{ス、ニ} 居、込、ニ、候、際、中、央、ヨリ、一、時、ニ、砂、漠、山、崩、シ、込、ニ

丹、テ、ガ、ウ、ノ、事、ヲ、云、^ス 見、ん、こ、土、中、ニ、埋、ト、死、地、上、ニ、縁、ケ、土、方、之、者、兵、警、愕、史、々、及、カ

傍、得、兵、段、々、入、リ、如、何、ト、モ、難、致、所、内、一、同、喚、集、メ

ハ、何、ニ、モ、ウ、キ、甚、字、ヲ、通、知、シ、給、子、五、十

穴中ハ機織組入多人敷クミラ土揚ケ漸ク午前
多ク時品キ死光揺揚候赴キ擔寺也所ハ許出ル

三河國階豆郡郷食定村居住

農高復久四郎事

水死人

飛

代

但惣身年産身目口自常体多丸鬚シ結ヒ前
髮之塗擲ヲ加ハ那衣ハ小紋陽巻ヲノ同屋編給
同屋縦編半纏ヲ着シ組編前垂ヲ結ヒ西袂
小石若千入字六平溜他傍ニ北枕作向ニ相果罷在
右之者階豆郡森村農亡大嶽善四郎娘三明治
四年四月廿三日同村居住ニ浦太郎七仲媒ニ高須

此ハ盗難ヲ云

文四郎ハ縁組罷在昨八年十二月女子出立座ラ双方
喜ビ里母親ヲサテハ折節之出入待子樂シニ罷在ル處
本月三日子前弟四時頃幼兒ヲ背ニ里ニ相越シ湯注
之上母里ノナル者ハ申聞候ハ身多所持ノ衣類若干ハ品
紛失致シ今更申譯無之由ニテ内情心配之様子察知
シ能リ言流シ其夜ハ宜慢卧致リ也翌四日午前弟二時
比娘亦代留守致サセ母ハ仲人ヲ即セシ罷越ニ用
濟飯宅ニル家孫頻リハ叶注々同娘喚立候得
共白道リハ不居合如何トモ不審ニ存スリ近隣親
類等相頼トモ分ケ尋ク處キ前弟七時迄同

ハ何ニモワラヒキ為字リ同知ニ為字五十一

村用水字大平は池に相果罷在几趣、祈出ル次吳
而事寧、雨のこみお分

○

行倒人

同所各前不相分
女 壹人

但全身無疵人相色黒リ顔丸ク鼻小方ク齒並揃頭
散髪中皆中丹年終三十二年位衣類木綿女半堅綿
身紺袴同紺茶水色腰紐之綿伴纏紺紐々纏伴リ着之
口紐紐下帯リナ紺脚伴履南ノ靴打休相果ル

紺洋黄横倍凡足紳

壹

内

木綿四迭

木綿小巾二

米壹合

麦 壹合程

茶碗二

欠碗一

小切切

銭二匁五匁

土瓶

壹

繪馬

壹

但奉納金比羅堂己歳女下書有
毛髮女少所

草鞋

一豆

有之者小月六日隣豆那細池村生之石大堤下ニテ
行倒お果ル

○

中野田豆榮座ノ所テ小月十日ヨリ日数十日之間芝

居興行

木六
廿五

三十七
五匁

藝人

尾上ツろは

浅尾徳之印

大谷路齋

尾上花之助

尾上多太郎

市川新十郎

ハル所ニモワラヒキ 為字リ通知之為字五十一

花園戎市

中村歌女翁

坂東秀治印

三月十八日櫻復捕縛墮胎犯罪之者原告書

三河國幡豆郡上横須賀村
之鈴木平兵衛長女

尼

知 觀

九年三月二十六年二月

爰三河國幡豆郡上横須賀村居住鈴木知觀
尼ナル者平素佛道志し明治二年四月二十四日剃髮
額田郡岡室町隨念寺門前秋谷庵照寂尼シ

受業師ニ立テ專務終行罷在ル處幡豆郡
上横須賀村字下所願王庵無任之由兼知
敬ニ未タ受業中ニ候得共夫是ノ盡力ニ因リ
竟ニ入庵日々佛心一念ニ觀念罷在ル處明
治七年三月頃ヨリ同村風呂屋職作橋伊七
ナル者折節入来或日戀情申懸候得共一
時程能言消シ候處尚辨古ヲ以テ屢々口
説テ回ラシ不得止議理ヨリ破戒密因候内
宣計ニ戒ハ年十月懷妊心痛之余リ何事
七ニ始末申聞ニハ勤心配致ス間敷隠然墮

ハメ何ニモワラヒキ為字リ通知ニ為字五十一

幾作タル有、
昨ハ三月三日
妻幸與夫親
屬相毆犯罪
ニテ岡崎警察署
出立有、柏岡
有在ル

胎致リ候間安堵四能右様申合メ候處
亦人二月ヨリ發病、テ就床不離自然出入
甚カリ追日音信之通ニ相絶テ此上等軍候
而人目、懸リ無是非一己之テ竹間ヲ謀リ
兼テ知ル西尾追羽新町居住農野村彦兵衛
幾作隨胎可致旨聞、既ニ三月十九日彼宅ニ
四能越シ内情相談スル、直ニ承諾右料金
貳圓五ナメ、テ仕末計ラヒ可遣旨、仲丸某
指某之兩劑シ施シ果レ飯宅兩日、經則二十
一日午前十時過、無故障墮胎致シ

候条不日伊七ニ報知シヨビ某同代價賜力可
乞存慮之由、亦人病症差重リ不幸、シテ亦
年一月十五、火公致ス、因リ無據二月二日
幾作、四能越シ自分野賊貳圓ヲ遣シ、幸
錢即辨、相頼候儀申上

ハ何ニモワラヒキ、毒字ヲ通知シ、毒字ナシ

隋豆郡平坂村無量壽寺ニシテ來ル五月一日日
六日ニ至ル在之同ノ一ノ系

一 阿彌陀如来像

或 躰

一 觀音勢至像

門 上

一 不動明王像

寺 躰

其他宝物

右ハ新川縣越中国射水郡今川町正興宗常照寺什物也

同郡家武村淨觀寺ニシテ山石代國信夫郡福高町康善

寺什物
一 親鸞上人木像

四月三二日ヨリ同二十六日開示ス

同郡秋原郡字門田ニシテ晴天三日之間 二十一日相撲

ハ何ニモヨクモ字ヲ通知スルガ事ナシ

發 係



魚行 本戶三三
坊 丑屋

本月十五日同郡野田村之社白山神明本殿造正遷之
年竹筒花火敷百有餘并揚

水死人一併

三河國隣豆郡 野場村之二十九日地左佐
農鈴本忠三郎 婦

三十九年四月

但全體無疵 耳目鼻口常伴頑丸筋之
其筋竹ヲ強之細紋リ以爲卷ヲ結
ヲ肌ニ之細糸堅結於小倉帶ニ之細糸
細無地綿入絆纏ヲ着シ字寶貝谷四番
備他傍ニウリテ

存之者本月十七日午後十時頃 疾行
出宅時後リ候テ

已不潔ヲ 臣等ニ有相類ニ多分ケ
獨搜候處村持用水汲也
ソリテ水死罷在 全體病ニ症有之者
吊合尚又 不勝容作也

家内臣等ニ存任 爲期ノ次
好々入シ 与テ忠三申
以書不
來二十甲ノ願合公
爲西庭ノ御此
四ノ由

豊樂屋



前狂言 小栗判官一代記 大席
中狂言 那須野上守府地
仲狂言 天乃綱嶋茶屋地

娘初駒 大森路
在東進 大森路
太角 大森路
赤海布 大森路
倉水 大森路
小左衛門 大森路
治若丸 大森路
菊之進 大森路
政元 大森路

好三十四
切三平
太三平
盛三平
成三平
信三平
市三平
幸三平

ハ何ニモヨクニキ 爲字リ通 知ニ爲字 五十

口許出ルニ中現場ニ出張夫々探搜徳敷
同村居住山本彌市先般竊盜之科因
リ懲役相成方今解免無産漂行ニ者ニテ
全ク彼ノ所處タル見込有之ト虽勘証
タル庸無^クヲ以テ尚探偵週廻之末見
其證佐ヲ得小人踪跡手配リ罷在ル
霞本月十三日額田郡岡寄驛板屋早
旅篋渡世塗師屋何某ニ隠避スルヲ偵
知之寢臥ニ踏込ニ捕縛拘引之上一應
推問及テ霞客月三十一日夜兼テ勝手ヲ熟

知ス岡田久吉邸内ニ手又疱丁提攜忍入
右兇器ヲシテ土藏壁剪リ衣類若干竊
取一端庫外ニ運出自今禪及ヒ帶等ニテ
縛リ同村字サ子山藪内ニ匿シ再ヒ残衣
悉皆西尾追羽新所太田忠次郎明家
押入古櫃、尚亦藏ニ置キ翌一日前
顯サ子山^ニ竊物取寄度ト參行候處更ニ
無之一時不審ヲ醸シ候得共全ク紛失ト
心得空手同所永田彌太郎客分以
方ニ在着日糸日右櫃内之衣類等時持

ハ何ニモワラヒキ
是字ヲ通分ニ為字
五十一

出之同人ヲ謀リ伯母ヲ借入高松資力
可致与詐言曲賣為致候得共末夕
呂其供殘之置候外數犯之廣々別
紙調書之通申之候事

明治九年四月

愛知縣

誥書

三河國幡豆郡鶴ヶ池村

農

山本彌市

竊盜二犯

四月三日探偵捕縛

九年四月二十二年四月

自分儀明治八年竊盜之科而即捕押
相成候處本年二月十三日即放免其後
追羽新町大工職安井儀助罷在候際
同町永田彌太郎容分似与申者

愛知縣

ハカ何ニモヨクニキ 是字リ通分ニ為字 五十一

馴染出入因三居候内不圖再思發意
之上左之通竊盜並詐為仕候

一衣類取交 六十六品

右者本年三月三十一日夜嘴豆郡鶴ヶ池村

割戸長岡田久吉家内之儀ハ案内熟

知致居候間裏ヨリ忍所持之巾又丸

丁是ハ三月八日西尾者町道樂店ニテ以テ藏壁

切破右虎黒ハウチサ子山侍ノ衣類若干竊一取

一端庫外ニ運ハ出シ夫ヨリ自分帶並

禪ソシテ縛リ同村ウチサ子山之叢ニ懸ハシ

隠シ置キ再ニ現場ニ飯リ残衣悉皆持

去リ西尾追羽新所太田忠次郎明家押

入半櫃之内ニ是亦藏匿之上翌一日前

顯サ子山之賍物取行候處全品紛失更

ニ不相分候間空手又永田ハ一方

罷歸リ節時半櫃ヨリ取出シ同入リ

謀リ左之通所買入為致候得共残品未

夕櫃内ニ有之申候

一唐棧縦縞廣袖絆纏 壹枚

一黒七子溝綾裾廻シ綿入 壹枚

ハメ何ニモワラヒキ 為字リ通分ニ為字 五十一

一 越後結城千筋綿入 壹 枚

是者亦月一日西尾天王町中村喜十、金三
四七十五匁、質入申候

一 地織紺淺黃縱縞及物 壹 枚

是者同日同入、金五十錢、質入申候

一 黒綿子女帶 壹 竹助

一 淺黃地白緋紋汗單物 壹 枚

是者同日西尾追羽新所仁賀保九十九
匁、金七十四匁、質入申候

一 吳羅服羽織 壹 枚

是、亦月一日同所、族内并政、金壹匁
七所、入申候、入申候

一 結城紺地水色縦竹助横、浮織袴 壹 枚

是者四月六日、右月十日、金七十五錢、質入

一 紺結城縞 壹 反

是、同入所持之箱、入置申候

一 鶯合羽 壹 枚

一 木綿紺茶縞綿入伴纏 壹 枚

右者亦年二月十日夜、幡豆郡上今川村居

住中村又重宅、忍入衣類若干取出候

ハ、何ニモ、四、九、七、キ、是、字、リ、通、分、リ、為、字、五、十、

竊尸主之覺知リ計リ竟ニ其息ヲ不遂
外衣現場ニ打捨前糸ニ品而已盜賊西
尾追羽新町太田忠次郎相頼ニ二月十日
同所天王町中村喜十、金七十五錢ニ質
入申候

- 一 結城紺淺黄壹葉々々縦縞袴 壹枚
- 一 地織紺淺黄縦縞袴 壹枚
- 一 紺淺黄染形縦縞袴 壹枚
- 一 白地子持碁盤縞單物 壹枚

一 地織紺淺黄縦縞及物 壹枚

右者本年三月日不覺宝飯郡豊川ニ
參詣之途中馬頭村右前不存方ニ忍入
竊盜是又永田一、一、拖之厄之箇所ニ
質入申候

- 一 袴 三枚
- 一 單物 壹枚

是者二月二十日天王町中村嘉十ニ金三
四十五錢質入申候

- 一 及物 壹枚

ハハ何ニモヨクニキ 是字リ通分ニ為字 五十一

是者本月一日同人金五十錢、買入申候

一金三圓五十錢

右者碧海郡上牧内村居住三井を有ルハ
顔知ル者、本月四日彼家ニ至リ西尾者
所古手渡色養濃屋彌市ト詐稱シ今
度岡崎板屋町蛭子屋ヲリテ古着買入候
可暫時金策致候様申謀リ別前
文之通詐謀奪取候儀、却座候見

金員之儀ハ因替食費、遺捨申候

右之通申立候事

明治九年四月

假令右讀新井 第三十七号

册子八日ハ掛巻も長き御致候事ノ初めル
雲井ノ上ハ由ニモ思ヒ下之ノ下ニモ我ノ迄

ハ何ニモワラヒキ 是字ノ通分ニ為字 五十一

御文章の端をいづる事よみ太平の御恩澤
有るこゝの辭り

琴通舎康楽

中とよのこははる國のたのしみ賊と文を身取場のん

鶴亀の歌二首

筑波菴松樹

棠麓より松葉の針のまかりと赤のく縫を又鶴の毛衣

竹の子の笠を赤かひゆるゆの西の山にゆく集亀

著書のはらゆる歌文字を録り 右面 菊

上を朝ごう者といふ大著も録せしむる思ふ

三河國幡豆郡 追羽新町

捧手振高

准切竊盜二犯

太田 忠次郎

四月十三日探偵拘引

明治九年四月十二日三河國幡豆郡 鶴ヶ池
村居住山本彌市竊盜二犯之科ニ而捕
縛尋問候處客月三十一日同村副戸長
岡田久吉土藏 磔お剪り衣類六十余品を竊

ハメ何ニモロクニキ 是字リ通分トガ字 五十一

取之内十直二品、西尾追羽新所太田忠次
郎明家半横一送之置候旨申露スニ
ヨリ直ニ出張夫々取糾候賈方主忠次郎
之曰本月日不覚自分用事ニテ空家ニ
至リ与風押入明ニ不見馴衣類數品
横内有之候間全ク贓物ニ疑敷ト近隣
之者共相談決馬御而可仕善之靈羽立
朝ニ移リ全品紛失致候旨萬然申
答ト呈聊嘸味タルハ拘リ致シ
置篤偵之上更ニ推問及テ靈別紙

調書之通申立候事

明治九年四月

ハメ何ニモワラエキ
為字リ通分ニ為字
五十一

後知縣

調書

三河國幡豆郡追羽新所

捧手振商

准寄盜二犯

太田忠次郎

四月十三日探偵物引

九年四月二十三年七月

自分儀本月日不覺要用ニ而扣明家ニ
參行押入明候寄所持ノ半檀ヨリ不見
馴衣類有之廻レ出ルヲ見認メ即時

ハル何ニモワラエキ
是字ヲ通分ニ
是字
五十一

後知縣

後知縣

相改大無謂留勿場所全ノ盗賊之潜
 匿古心附キ候間近佑之者ニ相談致引
 続キ却而可仕善候處不圖惡心差起リ
 当夜密切ニ持出ニ置前条近隣ノ者ニ紛
 失致候旨詐書内三品ハ自分實入仕
 残事之儀ハ同野石田喜助ニ相談不正
 口之赴キ甚明ニ辨_存衣_并類_類謝_類人_類十
 并投同又引_引引_引追_追石_石金_金三_三四_四兩
 三_三名_名類_類類_類引_引引_引申_申候_候十一_{十一}枚
 是ハ上州余石田喜助ノ金三十四枚

吳ノ申候

一紺風呂鋪

壹枚

一女袴

壹枚

一女帯

壹枚

右者直取申候中根_{中根}為_為申_申候_候事_事也_也ト_ト乃_乃
 申_申候_候中_中申_申候_候事_事也_也ト_ト乃_乃
 申_申候_候事_事也_也ト_ト乃_乃
 申_申候_候事_事也_也ト_ト乃_乃

一半纏

壹枚

一女鳥

壹枚

ハ何ニモ申_申候_候事_事也_也ト_ト乃_乃
 申_申候_候事_事也_也ト_ト乃_乃
 申_申候_候事_事也_也ト_ト乃_乃
 申_申候_候事_事也_也ト_ト乃_乃

後
 四
 係

愛知県

是ハ鶴ヶ川村山中彌市リ所入ノ
 里中ノ地ノ山ノ上ト云ハ施ト天王
 甲打高平山^金七十五事ニ由^業意也
 後ヨリ^上澤ト^金多ク^上外ハ^全長良
 仕辨^中ノ

右ノ道中^上

向^北ノ^上路^ノ方^上ニ^上馬^上仕
 生^レ被^レ年^上山^上中^上ト^上言^ス
 次^ニ拙^レ後^ノ年^上ト^上言^ス
 仕^レノ^上山^上中^上ト^上言^ス
 相^ノ局^上今^上ノ^上年^上ト^上言^ス
 次^ニ拙^レ後^ノ年^上ト^上言^ス
 仕^レノ^上山^上中^上ト^上言^ス
 相^ノ局^上今^上ノ^上年^上ト^上言^ス
 次^ニ拙^レ後^ノ年^上ト^上言^ス
 仕^レノ^上山^上中^上ト^上言^ス
 相^ノ局^上今^上ノ^上年^上ト^上言^ス
 次^ニ拙^レ後^ノ年^上ト^上言^ス
 仕^レノ^上山^上中^上ト^上言^ス
 相^ノ局^上今^上ノ^上年^上ト^上言^ス

ハハ何ニ毛口口エキ
 委字リ通知
 今ノ
 五十

本人新造者月事ハ出ド如
~~~~~ 此頃各々~~~~  
まねあやうと取テお出ド  
お知らるるも出ルり年ハ  
~~~~~ 月ハ~~~~~  
何事馬使りも年ハ~~~~~
~~~~~  
御事仰り多ク三月テワガ  
~~~~~  
此頃~~~~~
~~~~~

御事仰り多ク三月テワガ  
~~~~~  
此頃~~~~~
~~~~~

一 〇 御事仰り多ク三月テワガ  
~~~~~  
此頃~~~~~
~~~~~

愛知縣

云ベシ其際オノ度大ナルハ平  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

ハ何ニモワケキ 甚字リ通知シル

愛知縣



夕紅ハ小エハ情ヲ申義ウズル多ク  
揚子江ハ初見之志之偉哉  
巨細行帖ヲ交ハル者存件シテ人  
ハ思ヒ過子ト是ヨリ自カニ是キ  
云月ヲ方ハ名情スルナカシ寧ろ感  
ありナリ所謂子思母ト云道ト  
云下依得乳兒ノ内大御ナリ  
あハハ情ハ有リ今ヨリ愛ハ情ハ  
流レテ去ル云月方有ナリ林あり

いしは

夕紅ハ今ヨリ情ハ絶エテ去ルナリ  
抑リ流アルヨリ情ハ絶フ  
此ノ云ハ情ハ絶エテ去ルナリ  
月方有ナリ

夕紅ハ今ヨリ情ハ絶エテ去ルナリ

愛知縣

夕紅ハ今ヨリ情ハ絶エテ去ルナリ

夕紅ハ今ヨリ情ハ絶エテ去ルナリ

夕紅ハ今ヨリ情ハ絶エテ去ルナリ

ハハ何ニモワラエキ事ナリ通知ナリ

愛知縣



巡部リヨウヲモテ宛ツルニ拜々月日  
田ヨリヨク申上ル 終興ノ方古集令者トシテ  
恨儀之詞ヲ執ル  
之ノ所定寄席ノ具行ニテ申ハ  
撥多クモテモ申上ル申上ル  
傍申上ル係方ニテ流ニナリト云  
乃遣先お折申上ル申上ル係方ニテ申上ル  
之代價ニ積ルニ書取已下ニ申上ル  
祝分ニテ評儀方ニテ申上ル  
但研明ハ秘授ニナリ

申上ルニテ書取料 武島又ニ十四日ナリ  
未タ下下係方ニテ申上ル山ト別正令流ニ  
テ  
得書取失お詮方ニテ申上ル  
ハ月ノヨク申上ルニテ日口ニテ  
又ニ申上ルノ何分ニテ申上ル  
別正長失錯輕キ 兼年結書口  
ニテ申上ル長失書取ノ  
但失錯ニ輕キニテ  
男女ノ出内別ナキハ如何

ハ何ニモ申上ルニテ申上ル  
ハ何ニモ申上ルニテ申上ル  
ハ何ニモ申上ルニテ申上ル

頂海の凡そ屋姫隔日ニ女向ラ  
男向ニ極色スルハ入之混交  
スル哉

靴下料要否ハ山ノ月毎ノ多寡  
ハ  
分屯中身ノ計成 五字有ル

家取回作

Shut-in work in the ...  
The work in the ...

加

三河国幡豆郡大塚邨農

鈴木彦八妹

放火初犯

加 與

二月廿日告許捕縛

三十年五月

明治九年二月廿日三河国幡豆郡白濱新田  
副戸長鈴木桂次郎告許ニ曰昨廿日當村津土  
宗向弥陀堂住職尼稻垣教隨他行中  
后第三時頃佛殿西之間押入ニ有之綿綿  
ヨリ煙甚裏立出ルヲ留守居天野聖准

ハ何ニモ口エキ 是字ヲ通知スル者ナシ

後 係

見認ノ打敬馬キ隣傍喚立直ニ消防候際  
任職教隨罷歸リ石始末ヲ聞ニ火縁ナキ  
場所如何共不詳夫々取調候處全ク(子)  
(子)加與放火之并業相顕然ルニ本人儀元  
末虛弱殊ニ瘋癲ニテ曲居業其他之稼難  
成ヨリ佛事ニ志シ兄彦八相頼ニ昨ハ年  
七月ヨリ祖先田系代亡靈之爲メ念佛供  
養ホ執心ニテ阿弥陀堂弟子同様ニ而  
節ニ相越居候處即今暫ク氣分不揃  
之慮ニ有之節教隨平素心配四能存果

ニテ右所業相働候段訃ニ依リ西尾第  
十六巡查屯所ヨリ出張拘引取糾候  
處別紙調書之通申立候

ハ何ニモヨリキ  
為字リ通  
知シテ  
為字  
五ノ

被さる

三河國岡元郡大塚村  
住人

松平少左衛門八郎

放火初犯

一の

三河 岡元郡

三十七年五月

かみ儀知年日りの  
嚴 与座 筋 三子 曲 居 り 罪 難 亦 叙 放  
宣 更 り 人 三 房 八 上 佛 三 の 有 志 三 三 赴 三

ハの何ニモロクニキ  
是字リ通知  
三子  
五子  
五子

入レマシマシノク内ノ難シ事ノ也ト申上之旨也ト申上白  
廣新田郷ノ宗所内ノ隆正堂ノ住持後継  
新住持教隨自ら修治八年七月中  
日リ居介スクレ以テ成時々ニ回里トシ出シ  
入海ノ一子亦カ言ヒ脫履止ムル事有キ  
元久保也ト月二十日午后マキ時源  
名事示スル事係幸セ住後ト申行ハ  
コノ事故ノ宣揚部トトルハ好ム事也  
西ノ方申入ニカキニ申上ル事不出也  
今後自然ノ取上レル事ト申上俗

萌

おなし之事大意存在差違ハリ之事也ト申  
手ノ事ハあたりノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
何ノ事也ト申上置キル事ハ思ハル  
今内ノ事大キニ申上申上ル事ハ佛ノ事也  
安ノ事ハ佛ノ事也ト申上申上ル事ハ佛ノ事也  
敷キ事ハ佛ノ事也ト申上申上ル事ハ佛ノ事也  
駭キ事ハ佛ノ事也ト申上申上ル事ハ佛ノ事也  
押テ之事ハ佛ノ事也ト申上申上ル事ハ佛ノ事也  
之事ハ佛ノ事也ト申上申上ル事ハ佛ノ事也  
今内ノ事大キニ申上申上ル事ハ佛ノ事也

ハの何ニモ口ノモキ事也ト申上申上ル事ハ佛ノ事也  
通知ノ事ハ佛ノ事也ト申上申上ル事ハ佛ノ事也  
五ノ事ハ佛ノ事也ト申上申上ル事ハ佛ノ事也

たつと通り十五号甲

在りては

知事

三河国幡豆郡西尾矢場所

池町準同居高

賭博初犯

神谷善吉

二月二十日現時捕縛

四十年三月

筑摩縣下信濃国第十九大区八小区

伊那郡上飯田村高

賭博初犯

下澤長兵衛

二月廿日現時捕縛

三十六年五月

ハル何ニモロキキ  
為字リ通知  
知事  
係

係

打



三河国加茂郡下川口村

馬喰渡世

賭博初犯

田口 徳藏

二月五日現時捕縛

三十年

明治九年二月十九日夜三河国隣豆郡江原村  
農辻村三五郎裏小屋ニテ賭博場候  
趣キ西尾第十六巡查屯所並ニ等巡查戸田外  
雄午前第二時頃警邏中間込取之上  
二等巡查嶋津幸通指揮ヨリ即時夫々

出張尚探偵ヲ遂ル處事實相違ナキニ  
依リ現場ニ踏込捕縛拘引尋問候處  
善吉ナル者過日ウカレ節藝人雇入江魚  
村辻村豊之助居宅ニテ寄口興行致ス  
處不敏察目ニテ來客無之爰ニ同月十九日夜  
同村九平并ニ岡崎康生所丸屋善七相越  
西人ノ日今度興行不出來ニテ損分若テ相  
立候様子ニ付能キ錢設ノ相手戴名  
此者前頭長兵衛  
徳藏ヲ云  
連來リ今晚賭博相催ニ  
テラシ可取持由申聞興行濟午后

ハカ何ニモロウキ  
為字リ通知  
ハカ何ニモロウキ  
為字リ通知  
ハカ何ニモロウキ  
為字リ通知

十時頃則九平案内ニテ四名ノ者隨行辻村  
三五郎裏小屋ニテ恐入何レ博博勝負致  
候旨別紙調書ニテ通申立候事

此等事は白村九平岡寄り康生丸屋に  
七規坊一軒に在り是は後日建修せし  
多死の事なり

調書

三河国幡豆郡西尾矢場所  
池田準同居商

神谷善吉

四拾年三月

自分儀本月十四日幡豆郡江原村農辻村  
豊之助居宅ヲ借請ウ方レ節藝人相雇  
寄レ興行致居候間同十九日夜右村居住  
九平并岡崎康生所吉平業丸屋善吉口

ハカ何ニモヨキ  
是字リ通知  
ハカ何ニモヨキ  
是字リ通知

後  
如  
係

之兩名相越今般興行若干損分ノ様子  
聞及レ就テハ能キ博奕之相手兩人連来  
候付今晚組合テラヲ取持可致旨申  
聞其意ニ任レ自談之未午後十二時頃  
右九平案内トシテ同村名前不存居宅裏  
小屋口忍入賭場ヲ取設ケ右善七ヨリ貸  
口候散子ツ差出シ何レモ勝負致シ私  
儀ハ手合ヒ不致テラヲ可申受答之處  
金錢貸ト相成未タ一厘モ不受既ニ引  
拂ニ下スル際御捕押相成候儀ニ御座候

筑摩縣下信濃國第十九大區  
八小區伊奈郡上飯田村商

下 澤 長 兵 衛

三十六年五月

自分儀高用ニ付本月十二日亦籍出立同  
月十九日朝岡高康生所古手業九屋善  
七ナル者同所ニテ出逢談話ニ未儘豆郡  
江原村ニテ開テ博奕有之今夕可相越  
様申聞夫ヨリ同道之途中加茂郡馬  
喰渡世田口徳藏ニ面會前頭之次

ハカ何ニモワラヒキ  
是字ヲ通知スル  
爲子  
五十九

第申入候處是亦同意ニ而右村ハ罷越  
善七周旋之上九平ト申者案内申上  
後第十一時頃ヨリ都合五人連目同村  
曲辰名前不存裏小屋ト忍入善吉殿子  
ヲ以テ最度細合テ所持金八拾七錢五  
匁負<sup>既</sup>御捕押相成候儀、御座  
候

三河国加茂郡 下川口村

馬喰渡在

田口 徳藏

三十五年

自分儀同職三河国碧海郡姫村長三  
郎ハ用向有之同人宿元尋合<sup>レ</sup>候處  
當時職業<sup>ハ</sup>他出<sup>ル</sup>由然<sup>ル</sup>近日隣  
豆郡 岡山村ニ馬市有之其邊<sup>ニ</sup>相越居  
候哉<sup>ニ</sup>難計<sup>ニ</sup>本月十五日居宅<sup>ニ</sup>罷出<sup>ル</sup>所<sup>ハ</sup>  
尋中同十九日額田郡六名村<sup>ニ</sup>テ岡寄  
康生所古<sup>キ</sup>業九屋善七弟<sup>ニ</sup>信州上飯  
田村者屋長兵衛<sup>ニ</sup>出逢<sup>ル</sup>播豆郡江原村  
ニ而博奕有之旨兼<sup>リ</sup>夫ヨリ三人同伴<sup>ト</sup>右

ハ何ニモヨキ事字<sup>リ</sup>通<sup>ル</sup>知<sup>ル</sup>事<sup>ハ</sup>五<sup>十</sup>

村は相越善七周旋其村九平与申者  
案内村名并不存裏小屋に忍入善七  
穀子ヲ以テ敷度組合候内所持金三  
山善七に負金七十五或九平に勝右方  
木綿半纏壹枚受取既引拂ニトス  
九際御捕押相成候儀に御座候  
右之通申立候

別紙之通罪状申顯候間書類數  
通并ニ乳兒壹人相別御引度  
及候

明治九年二月二十九日 第四課岡崎出張所

第四課御中

ハカ何ニモヨクキ  
為字ヲ通知スル  
ハカ何ニモヨクキ  
為字ヲ通知スル  
ハカ何ニモヨクキ  
為字ヲ通知スル

愛知縣

三河國額田郡久村平民

高木治郎吉同居日傭稼

高木又藏毒

懷孕既二六ヶ月

謀印

吉所居作御時

養佐

二月十日

生月不存三十二年

明治九年二月八日當縣下三河國額田郡岡崎八幡町士族三友和吉訴曰當所置屋所高木又藏毒養佐ナル者抵當物差入金九田受借致度證人之儀ハ寫所背名

ハカ何ニモヨクニキ  
五十一

甚助可相立旨勿論夫又藏可罷出之處  
不快之赴而妻屢々頼談候間昨明  
治八年十二月四日約條之通美佐並保證  
人甚助同座而別金九圓也貸遺候得  
共期外に至り辨濟不致言り借主又藏及  
保証等は催旦候處何レモ敬馬愕右様  
之儀甚無之趣キ申答ルニヨリ夫は一取  
糾候處完り妻美佐之詐譎始末申  
出三戸尚探偵之上本人拘引推問スルニ夫  
又藏出縁中實印取山ニ調用之上官

生町山下吉五郎ヨリ昨昨治八年九月讓受  
候印ニ而保證謀印トナシ而后十五所日産  
縁細井竹藏相頼ニ証人甚助ナル者美  
助ハ候間一時顔出シ致シ吳候ハ金可  
整ニ日申謀リ竹藏懇意ノ情ヨリ俱々  
金主友和宅ニ至リ全金美佐受取り夫  
々費用遣拂候始末別紙調書之通  
申立候事

ハカ何ニモヨリキ  
表字ヨリ通  
知シテ  
五十一

後  
印  
係

明治九年二月日

當分

第四課岡崎出張處詰

一尋巡查近藤一六六

調書

三河国額田郡々村平民高木治郎吉  
同居日雇稼高木又藏妻

懷孕既二六箇月

養 佐

生月不存三十三年

自分儀内輪不摸通二月一時融通致三  
度高木存養起、明治八年十二月同所八  
幡町士族三白友和、至り夫又藏現今不

ハハ何ニモヨリエキ  
五十一



快之趣キヲ以テ自分<sup>代理</sup>金子借用<sup>箱</sup>方  
 頼談ニ及ヒ保証之儀ハ寫<sup>所</sup>皆名甚且可  
 相立旨夫是詐リ既ニ條約<sup>請印</sup>整ヒ候就又藏  
 出稼中實印取出<sup>請印</sup>之證書<sup>請印</sup>上<sup>請印</sup>官生町山  
 下吉五郎ニテ昨八年九月讓<sup>受</sup>印ヲ以テ  
 保證之謀印致<sup>レ</sup>而後十五町日雇稼細井  
 竹藏ヲ謀リ請人甚助<sup>レ</sup>者他行中候間金  
 主<sup>金</sup>ニテ顔出<sup>レ</sup>吳候様<sup>申</sup>客<sup>申</sup>年十二月四日友  
 和宅<sup>ニ</sup>至リ全金九圓詐<sup>ニ</sup>為<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>取<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>上<sup>レ</sup>左  
 之<sup>レ</sup>通<sup>レ</sup>須<sup>レ</sup>債<sup>レ</sup>譯<sup>レ</sup>奉<sup>レ</sup>余<sup>レ</sup>ハ小遣<sup>ニ</sup>仁<sup>レ</sup>拂<sup>レ</sup>申<sup>レ</sup>候

一金壹圓

是者投所茶碗<sup>長平</sup>口<sup>團</sup>蒲損料代

一金壹圓拾錢

是者福壽所<sup>掛</sup>頼<sup>母</sup>敷<sup>講</sup>出<sup>金</sup>  
 不足之分出金仕候

金貳圓

是ハ<sup>佐</sup>生<sup>所</sup>文<sup>次</sup>郎親<sup>戚</sup>宝<sup>飯</sup>郡<sup>形</sup>  
 百某<sup>質</sup>入<sup>上</sup>借<sup>候</sup>間<sup>傳</sup>馬<sup>所</sup>火<sup>野</sup>權<sup>辰</sup>部<sup>一</sup>

辨<sup>長</sup>金仕候

金壹圓六十錢

ハ<sup>何</sup>ニ<sup>モ</sup>シ<sup>テ</sup>キ<sup>キ</sup>表<sup>字</sup>リ<sup>通</sup>知<sup>ス</sup>ル<sup>事</sup>ナ<sup>リ</sup>

是者債主三百友和金子相渡候不序其  
一ヶ月元利仕拂申上

右之通申立候也

明治九年二月三日

第四國司出張所  
日守部北目住信信

明治九年四月二十七日三河國幡豆  
郡西尾天王所居住士族大門包長  
男平民同姓節武ナル者當夜東組  
所神谷政太郎扣ニ三月ヲ追羽新  
村皮細工職杉浦鐵次郎姉甘  
ヲ打擲傷為負候趣キ以テ候視之儀訴  
出候間第六巡査屯所ヨリ出張則一歐傷  
是候分致入處頭上背部有耳  
ニ大疵小疵長深一區師診ニ箇處右頰全  
部腫起皮膚層赤色ニシテ出血難敷

ハカ何ニモヨリエキ  
五十一

衣類ニ凝滯ス因ニ醫師喚寄也  
 診案之上上瘀血洗除而若葉用  
 相絶之療養長差也姑養十應尋  
 三得婦甘味本曰齋戒儀者  
 明治癸卯月了別原因居候自毛依頼詩ケ  
 金子若子取次代是也候得共期限  
 才孝之辨濟不致以子葉々備  
 保及下虽毛一時ノ再念申述京ノ  
 川送致而已二十既ニ二十七日午後  
 九時邊東組所神谷政之郎宅ニ至リ

在田大明清

本人喚出之尚亦金談催但及ブ霞  
 理不尺申吐キ京助之腹物リシテ散々  
 首上鬪取候間一為氣絶稍々  
 打伏之漸次本心ニ覺之候際忍田三枝  
 保護ヲ得意ニ就宅候上日由一階  
 以テ直ニ節取拘リ紅階候霞一階階  
 始末別紙調書之通申立候事

ハカ何ニ毛ワリキ  
 表字リ通知  
 知子  
 五十

Handwritten text in two lines, possibly a signature or title, written vertically in cursive.

予

調書

三河國 播豆郡 西尾天王新町  
士族 大門包長男

平民

關歌

大門 節 哉

四月二十九日探偵勾引

二十二年十月

自儀明治七年五月ヨリ 西追羽新  
村居住皮細工職 杉浦鐵次郎 婦也

Handwritten text on the left margin of the page, written vertically.

ルナル者ニ則染因ニ居候情事ナリ  
彼ノ如キ若干金借立見ニ負債相當  
ニ返濟方躰々催但致候得共々覺  
之道ナキ依リ自然等相成リ然レ  
宣<sup>四</sup>月廿七日夜本人罷越ニ尚亦辨金  
之儀申入ルル由甚目的無之如何  
ト云難致<sup>角分</sup>風<sup>角分</sup>変心不圖履物  
以テ打擲傷所候段今更後悔奉  
恐入候

尾張國岡田郡加納村  
子民高木五郎ハ所藉  
神奈川縣  
高木五郎ハ所藉  
二月廿三日  
生月二十二年

實松  
神之川  
南無阿彌陀佛  
大早野五郎  
十六年六月

ハハ何ニモ  
五字ヲ通  
知ニ  
五十一

明治九年二月八日當島下三河國  
宝飯郡新井村御所氏中古仲秀  
白井重義翁等御所氏中古仲秀  
人鹿沼國少御所氏中古仲秀  
二高野郡少御所氏中古仲秀  
御所氏中古仲秀等御所氏中  
今社下河田村御所氏中古仲秀  
平島村御所氏中古仲秀等御所氏  
御所氏中古仲秀等御所氏中  
御所氏中古仲秀等御所氏中  
御所氏中古仲秀等御所氏中

時器年々より乏する純探索なり  
新國因取去星部より奪えおる  
この由ゆへに御所氏中古仲秀  
失竊り御所氏中古仲秀等御所氏  
此上をよき事とせしめ御所氏  
御所氏中古仲秀等御所氏中  
御所氏中古仲秀等御所氏中  
御所氏中古仲秀等御所氏中  
御所氏中古仲秀等御所氏中  
御所氏中古仲秀等御所氏中  
御所氏中古仲秀等御所氏中  
御所氏中古仲秀等御所氏中

ハハ何ニ毛ワリキ  
五十一  
五十二

上格北往身より一人お似家  
 へしり実物出今号一魚  
 甚る中を多取ナク  
 去に捕行ると所細く  
 余の意のるるあるを中より  
 浴店より上九流の看より  
 斯所新草に及り  
 うるこ

被虫

尾形玉乃母即少折却  
 是乃本且たりの所共籍

是乃本且たりの所共籍

十月二十一日

何の文明治の年九月

吳鑑巴の製造を

同年十二月十日

物りり子結情現場

觀つるまうと口

ハめ何ニモウキ  
 ハめ何ニモウキ  
 ハめ何ニモウキ  
 ハめ何ニモウキ  
 ハめ何ニモウキ

從之曰揚川あなまのり全そ花罪  
 同りおつ籍の件年一之廿籍の四  
 日程を所玩三月ある居お通  
 送ノ途ちあ海に蘇州建白丹  
 平之終力六日跡をそゆサレそち  
 口局に之籍とゆゆ後そそあ知  
 とあ言ふなりそあ能うれお諾  
 ところと流ゆるを所別人そ同  
 ねれとぬ王は額向即去とそ同  
 岡寄りそ立りまうり日即停りあ

本説

名あふなる本籍中居らるる  
 強取ると能見こわに傳らるる  
 口取中口おりあなまのりあそ

調書

山後国あ砂印あ井野  
 身何作長男  
 口取中口おりあなまのりあそ

ハの何ニモウレキ  
 是字の通  
 知の  
 字  
 五十一











Handwritten text in a grid format, likely a ledger or account book. The text is arranged in columns and rows, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The grid is defined by blue lines.

同 下 間 屋 幸 取

受分縣選二年人分表

明治二年九月八日改訂

ア十五号分選小既

とす其の五六控



Handwritten notes in the left margin, including the characters 'ハ' and '何'.

Red handwritten characters in the left margin, possibly '後' and '係'.

出  
 一 西 田 何 之 探  
 二 索 係  
 三 定 長 成  
 四 岡 白 忠 以 部  
 五 間 下 幸 四 部

第一七所

第一大區 二小區  
 押切町

小頭	一 幸 邊 子	二 幸 邊 子	三 幸 邊 子
小川信生	川 藤 行 篤	後 藤 正 隆	石 原 繁 忠
副小頭	江 口 尚 四 郎	安 井 年 子	水 野 信 孝
依之少保一	中 村 貞 信	横 井 時 治	形 田 宗 右
		小 田 切 忠 治	高 田 宗 三 郎
		松 本 次 郎	松 本 茂 五 郎

ハハ何ニモヨクニキ  
 是字ヲ通知スルガ  
 事ナリ









日向保身

日向保身

					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身
					日向保身

日向保身

日向保身  
日向保身

日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					
日向保身					

日向保身  
日向保身







平九ノチノニ

ナチ大區  
設キ  
新 城

一等 設キ 川 上 近 谷 吉 兵 衛

水 路

一 等

二 等

三

等

小濱三年 藤 藤 子 郎

全白 諱 人 永 村 彦 吉 郎

堀川 勘 兵 衛 近

中 津 左 三 郎

廣 野 宗 近

全 白 諱 人

ハカ 何ニモ 口エキ 爲 字リ 通 知ニ 爲 字 五 十

發 口 係

發 口 係


甲子 甲子  
甲九下二區  
 一等 敬書吏  
 陸 壽 可 雅 彌

小 江  
 一 等 日  
 二 等 日  
 三 等 日  
 四 等 日

米 甲 乙 丙 丁  
 向 白 江 印 中 丹 飯 負

割 小 江  
 小 陽 亨 亨 亨  
 長 谷 川 傳 吉

酒 丹 全 印  
 西 川 七 印  
 中 丹 有 亨 亨

小 陽 亨 亨 亨  
 山 田 亨 亨 亨

米 甲 乙 丙 丁

小 陽 亨 亨 亨  
 中 丹 有 亨 亨  
 西 川 七 印  
 山 田 亨 亨 亨

陸 壽 可 雅 彌





東ノニシキ

カトス区 一 等 裕  
半 裕

小 沢

一 二 三 木

西川 松 園

山 本 義 忠 杉 田 良 義 小 田 久 義 忠

宗 西 保 元

今 人 院 賢 寺 久 義 忠 阿 部 賢 貞 大 塚 孝 貞

引 少 氏

大 塚 孝 貞 大 塚 孝 貞 大 塚 孝 貞

三 松 左 衛 門

河 邊 山 屋 坂 井 正 貞 河 邊 山 屋 坂 井 正 貞

右 山 正 親

大 塚 孝 貞

ハナノ何ニモウシキ 為字リ通 知子 嘉子 五十一

録

如 録


石川

石川  
第一

第一

第一

石川

第二

第二

第二

石川

石川

石川

石川

石川

石川

石川

石川

石川

石川

石川

石川

石川

甲十田子所  
一等 二等  
水 路 車 乘

水 路  
一 等  
二 等  
三 等

以 岸 子 通  
廣 德 堂 形  
中 村 信 條  
河 路 嘉 三

副 小 路  
井 上 新 宮  
千 田 村 権

河 路 日 本 形  
寺 尾 嘉 子

ハ 乃 何 ニ 毛 口 子 王 基  
ガ 乃 何 ニ 毛 口 子 王 基  
ハ 乃 何 ニ 毛 口 子 王 基  
ガ 乃 何 ニ 毛 口 子 王 基  
ハ 乃 何 ニ 毛 口 子 王 基  
ガ 乃 何 ニ 毛 口 子 王 基

發 口 係

卷 五 葉 九

水 路 車 乘

第一車	カク大二區	一	水	水	水	水
第二車	海	二	水	水	水	水
第三車	海	三	水	水	水	水
第四車	海	四	水	水	水	水
第五車	海	五	水	水	水	水
第六車	海	六	水	水	水	水
第七車	海	七	水	水	水	水
第八車	海	八	水	水	水	水
第九車	海	九	水	水	水	水
第十車	海	十	水	水	水	水

ハク何ニモヨリキ  
 第一車  
 第二車  
 第三車  
 第四車  
 第五車  
 第六車  
 第七車  
 第八車  
 第九車  
 第十車

第一車  
 第二車  
 第三車  
 第四車  
 第五車  
 第六車  
 第七車  
 第八車  
 第九車  
 第十車

第一車  
 第二車  
 第三車  
 第四車  
 第五車  
 第六車  
 第七車  
 第八車  
 第九車  
 第十車

チナニス区

ニ等

小竹系忍雄

ニ等

朝岡小治郎

全作均

小竹系忍雄

酒井源八

神谷源六

小竹系忍雄

小田理平

ハシ何ニモワラエキ  
一ノ  
二ノ  
三ノ  
四ノ  
五ノ  
六ノ  
七ノ  
八ノ  
九ノ  
十ノ  
十一ノ  
十二ノ  
十三ノ  
十四ノ  
十五ノ  
十六ノ  
十七ノ  
十八ノ  
十九ノ  
二十ノ

後口系

知口系



ハカ  
何ニ  
モ  
ヨ  
リ  
キ  
モ  
字  
リ  
通  
知  
ス  
ル  
事  
ナ  
リ

卯十五又二区

二  
本

小  
原  
系  
乃  
旗

中  
島  
見  
國

中  
島  
乃

三  
等  
邊  
子

小  
川  
系  
乃  
旗

中  
島  
系  
乃  
旗

中  
島  
乃

新  
山  
隆  
志

隆  
志  
乃

中  
島  
乃

新  
山  
隆  
志

卯十五又二区

卯十五又二区









三上之合後換供之水車とるるに  
有るに之合後名出浪と云んか  
但地元重に多るる事

一 兄分と只書る死而ハ孝節と云ん  
也

一 河内河原村に云ん月余の病に換  
列古之郷と云ん未之儀ハ云ん又ハ  
命に拘りの中裁難計に換中一  
又言行

一 病人血狂と云ん百ふれは云ん  
也

何れ云んハ河内河原村に云ん  
只云ハ云申す事

一 換供之儀ハ云ん死に換供之儀  
好未及極之近之儀云ん下  
河内河原村に云ん月余の病に換  
中一又言行

一 因換供之儀因死外之儀云ん  
也  
但年只云ハ云ん事

ハ何ニモ云ハ云ん事  
ハ何ニモ云ハ云ん事  
ハ何ニモ云ハ云ん事

一 凡分書曰書之張合大畧在左也  
但久例之既實如凡分年下立  
以凡之書存焉

四凡分書

一 凡例何程之男女  
年終何筆位之何天祿也  
鼻口之在何處並其條也  
代厚或ハ何之何判之律也

何之ヲ着之何事或ハ天ノ下ノ白本  
下下事トテ之ヲ舞レテ其ノ何  
下下ニ仰向スル也  
例

何本

大幾呂

古者有る月矣り凡例死入者之  
之何ト云々其の條は之ノ何  
の之在何處ト云々其の條は之ノ何

ハ何ニモ  
ハ何ニモ  
ハ何ニモ

發  
四  
條





東出

石の如きな指はれりては  
まゝなるに候へども  
其の如く候へども  
其の如く候へども  
其の如く候へども

年号不明

下

一 瀧危員信も石の如き  
其の如く候へども  
其の如く候へども  
其の如く候へども

一 瀧危員信も石の如き  
其の如く候へども  
其の如く候へども  
其の如く候へども

西見の書

其の如く候へども

何國何郡何なる

但右、後長河守  
何と云へば何と云へば

ハハ何ニモ  
ハハ何ニモ  
ハハ何ニモ

持病をそり分唐書死誰  
方正所為死亦倒し水在死  
抄向  
お依  
お依  
お依

一 振足 幸本

是ハ誰の持る事  
仁身長サ何寸殆何存持身  
之信與深きお毀持品  
一 障子 何故  
一 何 する

ノ要品是ハ誰存持る事

右ハ高り受又高村百姓誰方コオ开テ  
右誰儀の村死誰より傷る之ハ  
お依 一 振受よりゆり得 中エともまの持  
似るしとて本ハ誰ハ其のゆり之舎之  
研ハとわらえたり中とる事出向と  
お依 是より中とて 何々 建系する事申及  
る

幸本 月々 振足 幸本  
お依 考くはく、保  
ナヘシ

ハハ何ニ毛口エキ  
ハハ何ニ毛口エキ  
ハハ何ニ毛口エキ  
ハハ何ニ毛口エキ  
ハハ何ニ毛口エキ



新野 平  
打役人

新野

夫の事... 誰か... 打方... 新野... 又ハ此歌及埋...

古  
任人 平

古口

古口... 出... 新野... 古口...

ハハ何ニモ...



甲上...  
 因獄  
 後合連平

あま...  
 古...  
 界...

甲見分書

一 変死人

大...  
 他...  
 他...

他...  
 白...  
 後...  
 お...

ハ...  
 一...

一...



住 濱 廣 柳

山口村  
者多布家親類

住 濱 官 早 臣

山口村  
田屋

住 濱 柳 官

山口村  
柳河五世系

住 入 谷 八

山口村  
早臣

同村  
新田業

住 濱 忠 八

同村  
新田長

住 濱 利 平

愛 知 縣 清 出 使  
水 野 直 英 辰

ハ  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十





山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報

山形新報



一、新に... 新集... 紅... 二

習... 淵... 淵... 淵...

今... 淵... 淵... 淵...

淵... 淵... 淵... 淵...

淵... 淵... 淵... 淵...

淵... 淵... 淵... 淵...

淵... 淵... 淵... 淵...

淵... 淵... 淵... 淵...

Main text on the left page, vertical columns of cursive Japanese calligraphy.

Left margin text, including a red seal at the bottom.

一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇

一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇

一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇  
一 〇〇〇〇

〇〇〇〇  
〇〇〇〇  
〇〇〇〇  
〇〇〇〇

孝行

... 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ...

孝行

... 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ...

... 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ...

孝行

... 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ...

ハハ何ニモワリキ 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ... 孝行 ...

孝行

第六號

三...  
 十...  
 一...  
 一...

巾見分書

一 免入男

三 宣入

但年... 宣入... 免入男... 巾見分書...  
 但年宣入... 免入男... 巾見分書...  
 但年宣入... 免入男... 巾見分書...

和末...  
 和末...  
 和末...

一 吳呂依紺地帯

一 白足袂衣

愛知縣

第七號

一...  
 一...  
 一...  
 一...  
 一...  
 一...  
 一...  
 一...  
 一...  
 一...

愛知縣

一白年拭

三ノ卯

一皮子紫粉入 月天打也

三ノ

一真籐煙夏

三ノ木

一瓢 但中入程

三ノ

一赤綿淺草の信古々 風名及包

内 厚品々有之

一辨古の信 但赤綿の信 三ノ

内

一紙綿中 二豆ノ粉

少ノ

一白赤綿伴

三ノ

一古々 辨古函

三ノ

内

一後磨器具

三ノ

一水銀入竹筒

三ノ

一古刺刀

三ノ

一磨炭灰

三ノ

ハハ何ニモワリエキ 名ヲ出ツ中ノ成チキ 第ニ程ニラ 知ルニテ 五ノ

一 礮ノ粉

一 袋

一 樽 附金木綿燵布

一 袋

同

一 太政大臣ノ朱札

一 枚

一 三匁銀錢

一 枚

一 三匁銀錢

一 枚

一 八匁銀錢

一 枚

一 鏡 棟板

一 組

一 古キ竹相

横五寸程  
堅キ人ノ身ノ糸

一 束

同

一 礮石

一 六

一 古キ綿切

一 束

一 金櫃

一 櫃

一 刀根

一 組

一 漆目ノ土器 罎

一 罎

一 矢摺

一 組

ハカヘニモヨクモ  
名ヲ付シテ  
通ルル者  
五十一

一 釘房

ニ

一 唐杖

ニ

一 切りタガ子

六 杖

一 穀釜

ニ 杖

一 目鏡

ニ

一 似多紫粉入

ニ

一 銘折

ニ 杖

一 合口底

ニ

一 毛拵

ニ

一 古金折

ニ 杖

一 古金折

ニ 杖

一 刀打改衣

ニ

一 小サキ所輪

ニ

一 鼻緒巾色

ニ 杖

一 穀木押

ニ 丹

一 道中配

ニ 目

ハハ何ニ毛ワリエキ 名ワシキ 通知 名ニ 名子 五十一

一 善口山寺御務寄

寺舟

一 糸能出

寺役

一 道長小綿後引

寺豆

一 浅野小幡後引

月

一 紺袴脚半

月

一 小綿白望信吉原如

寺

一 紋

寺

一 糸糸盤

寺

大川給名

上 石本 月 寺 夜 張 豆 甲

甲 能 仁 寺 半 六 十 九 名 一 作

ハ 白 粉 十 病 丸 任 月 寺 月 傳

中 上 口 寺 月 寺 粉 祝 月 寺 祝

寺 糸 糸 口 寺 合 口 寺 能 月 寺 分

月 寺 月 寺 寺 月 寺 月 寺 月 寺 通

ハ 糸 糸 口 寺 合 口 寺 能 月 寺 分



年  
 正  
 二  
 三

卯  
 浩  
 二  
 年  
 三  
 月  
 十  
 日

大  
 七  
 小  
 正  
 知  
 事  
 大  
 谷  
 村  
 百  
 八  
 十  
 一  
 番  
 地  
 田  
 村  
 百  
 八  
 十  
 番  
 田  
 手  
 賀  
 友  
 屋  
 二  
 日  
 村  
 百  
 七  
 十  
 番  
 地  
 大  
 四  
 代  
 七  
 番  
 地

手  
 賀  
 友  
 代  
 七  
 番  
 地



愛  
 知  
 縣

隸  
 比  
 姓  
 籍

一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十

七

才七右二点九下三

石井

千四百五十七番地

石尾 小三郎

美田 大西 田中 區

丹波 仰  
新田 橋 佐 村  
鎌倉 系 尾 田

日 後 友 忠 長

美乃 大 區 一 小 區  
長 尾 村

大 橋 村  
綿 子 實

日 角 右 新 二 郎

但 長 代 藤 田 甚 右 郎

志 丹 長

物

副 左 長

物

竹 内 玄 助

愛知縣

新 井 村

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

愛知縣

不長

蓋田...



受取...

...

...

...

...

...



愛知縣

...

二...  
ハ...

...



少司馬 丹波 七郎

丹波 七郎

丹波 七郎 九郎

丹波 七郎 九郎 十郎

七郎

西尾 十郎

丹波 七郎 九郎 十郎

丹波 七郎 九郎

丹波 七郎 九郎 十郎

丹波 七郎 九郎 十郎

丹波 七郎 九郎 十郎

丹波 七郎

丹波 七郎 九郎 十郎

丹波 七郎

丹波 七郎 九郎 十郎

丹波 七郎 九郎 十郎

丹波 七郎

丹波 七郎 九郎 十郎

豊田

三月廿二日

三月廿二日

本月七日當より下町七左邊の町區  
 岩倉寺村に氏代守のり石止  
 屋はらゝ敷本夜より物氣ふら紀  
 りはるまのりするはむ之節  
 りするはむ之節  
 りするはむ之節  
 りするはむ之節  
 りするはむ之節

仕り方のり得やとり年りのり候  
 視  
 一丁のた玉五代七  
 多石やのり候  
 中  
 鋸目立る由り  
 月  
 するまのり共

愛知縣

第廿四區

一二三...  
 八...  
 九...  
 十...

愛知縣



玉姓之途 和職 少少降之  
 日人妻 千仲子 乃乃 下 引 長  
 其 采 云 上 尚 子 亦 守 長 其 子 將  
 古 佈 之 名 名 之 名 是 以 然 中 是 名  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 柳 子 掛 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 おは 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 以 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 代 七 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

一 二 三 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百



愛知縣 第七大品

物名凡等之切取之中  
72

古一月五遠三申より候

卯辰二辛三月丁日

子亥五代七

子亥五代七

大澤の池



愛知縣 第七大品

一三E又余程免知の由の中申す事余第ニラ  
ハ何ニ毛ワキキ毒字リ通知スル事五ナ

愛知縣

愛知縣  
...

...

...

...

...

他長代

...

副長

...

...

...

...

...

...

愛知縣

第二七五

一三三三  
...

...

知縣  
...

第三

而兒分玉

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

分りて往來せしむる所  
つるに遠く平美なる日  
三河國新白龍寺  
三河國新白龍寺  
三河國新白龍寺

口原  
三河

親類  
三河國新白龍寺

色名  
三河國新白龍寺  
新白龍寺

組合  
山本

又

別

市川  
三河國新白龍寺

三河國新白龍寺  
三河國新白龍寺  
三河國新白龍寺

三河

一三E  
何二毛  
何二毛  
何二毛

三河

大市山寺

口

三

三國

三

三

三

三

日

新

三

山

三

三

三

三

三

三

組

山

三

三

三

三

三

一二三... 何... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

三

太田久成

副戸長

奉命 又

大井 右

本月七日... 本川... 天災... 伊人... 申...

一 早川... 天災... 申... 伊人... 申... 絶命... 申... 絶命... 申... 絶命... 申...

一三三... 何... 程... 申...

發 係



一 此の如く...  
 大竹...  
 後...  
 迷...  
 一見...  
 一月...  
 一切...

明治七年九月八日

林...  
 山...  
 石...  
 大...

右...  
 大...  
 修...  
 大...

而...  
 降...

一三...  
 二...  
 三...

變  
 四  
 縣

指視田抄記

口書高う陸り

廿四号

所見外書

第三大區三小區

春日井院

下小田井お高

一房久入

山田屋八

廿四号

但細田之信守お知中  
子下組三夫人常り  
開外お高お高お高

石本丹亭

一二三... 何二毛... 何三毛... 何四毛... 何五毛... 何六毛... 何七毛... 何八毛... 何九毛... 何十毛...

發 和 係

家出仕一名村うる者仕入ト  
見山田中を伊太務松と集  
谷白を中印日居るハ口石村  
より多分私取仕之村赤野  
お三修の月一名村字古杖元  
三修多強打と母丹標と標と  
掛り系保る居入修と保免仕  
川石の修入中と居るりあは修祝

一 福集り紙に松兵りあは修祝  
りん分り坐居る者修祝  
あは修と居る者修祝  
三修エカト

明治七年十月

春日井郡下小田村  
三山田日屋八郎

修祝  
三修

一 三修  
二 三修  
三 三修  
四 三修  
五 三修  
六 三修  
七 三修  
八 三修  
九 三修  
十 三修

修祝  
三修

系合

英名月即下小田村  
字子子  
之山田里八兄

山田小三郎

二十九年

中下押切丁  
伯父

竹友修

五十二年

中下押切丁  
伯母

長子

三十七年

下小田村  
長次

山田小三郎

三十四年

小田月村

大格松

三十四年

系合人

系合人

谷田  
三十四年

一三E又余程免名口由中  
ハ何ニ毛口口エキ  
通知  
係合人  
五十九

係合人

阿蘇郡志

丹波

三村赤良

二十七年

一色村

見附人

新谷

二十七年

組合

今川

三村

横井

赤松

二十七年

赤松

二十七年

赤松

二十七年

赤松

二十七年

小川

二十七年

一三三又... 何二... 何三... 何四... 何五... 何六... 何七... 何八... 何九... 何十...

...

別天長

善喜白三石

天長

石見守左七

一色打割天長

本打唯可

重知知

阪山寺

家孝乃... 山口... 福... 添... 添... 添...

別天長... 善喜白三石... 天長... 石見守左七

一三E... 何... 何... 何...

一色打刺戸長  
本村唯忠

山田り子

山田小三郎

河上右衛門

口書りり田原

第五節

此處為控視お裁見多し立丈  
兩紀 此處出雲面一屋申之此也  
候去風波の母々々此間山々申立  
也

明治七年

共出役

二月廿七日

青木清造

後田縣

一二三又余程是名ワ由ッ中ハ申キ第ニテ  
ハ何ニモワエキ為字リ通知スル者ナリ

後田縣

心算分書

一三三三  
二二三三  
三二三三  
四二三三  
五二三三  
六二三三  
七二三三  
八二三三  
九二三三  
十二三三  
十一二三三  
十二二三三  
十三二三三  
十四二三三  
十五二三三  
十六二三三  
十七二三三  
十八二三三  
十九二三三  
二十二三三

發  
口  
係

口  
係

一三三三  
二二三三  
三二三三  
四二三三  
五二三三  
六二三三  
七二三三  
八二三三  
九二三三  
十二三三  
十一二三三  
十二二三三  
十三二三三  
十四二三三  
十五二三三  
十六二三三  
十七二三三  
十八二三三  
十九二三三  
二十二三三



此目は分り

一人女 一人

但年齒五十余、下々人程色  
黒り、白晁、候、キ、方、耳、自、口、唇、体  
頭、最、後、交、ら、る、者、リ、衣、子、藍、  
色、之、結、四、角、お、藍、色、袖、十、三、疋、着  
但、少、強、終、袖、無、纏、付、白、く、り、  
物、着、候、傳、伴、リ、着、候、黄、木、綿、  
ノ、湯、巻、ツ、ノ、二、階、座、敷、六、疊、ノ  
間、圓、座、ノ、上、南、方、頭、ニ、致、シ、  
作、向、お、キ、年、お、果、ス、候、在、候、

一二三又余程是名ハ由ッ中ハ少キ余第ニ程ニテ  
ハ何ニモワシキ事字リ通知スル者ナリ

變 四 條

松本有之品

一 麻小紋小供帶 五匁

一 手拭 五匁

一 即切紙ノ上袋 五匁

一 木綿藍結絨布 五匁

内ニ土堂五匁錢 五匁

一 皮弓形入筒共

但隈及真鍮

一 古物總之類 五匁

右名本内月及甲日止中居之在  
其亦おま向昨及六白病免  
其後より四ノ附申上より其數りあり  
換視ノ紙被牛本ノ私共ノ之入合  
免嚴りん分り座居る事多し因  
之由申上より座居る事多し因  
之由申上より座居る事多し因

一二三又余程是名ワ由ッ申上り余程ニラ  
ハ何ニモワエキ事字リ通知ニ事字五十

發 印 係

明治七年二月廿七日

才一天區部少區部生向  
三丁自十八米日相高之目人

安友難波同居  
旅々色信世

何事小信送代

安友難波

三小區部屋所三丁目  
庶務課附三事以有



村井淡水



六小區部生向三丁目  
二小區部留方之母

女抱人

ま〜



六小區部出方小田中居  
木村子良信一長女

下女

まよ

安友難波妻

一二三又余程是免名ワ由ッ中ハ中ハ余程ニラ  
ハ何ニ毛ワエキ  
五十一

愛知縣

海三

佐長

山本和吉

副長

成野子八

長川何之儀代

土川白河何之儀



愛知縣市役  
長川何之儀

年嶽着張小巨細のお恩  
一所之長之福生之儀  
幸院之儀埋所持之雜物  
子斗馬之儀分る之儀

一二三又余程是知の由の中成中余程三  
ハ何ニモヨリキ甚字リ通知之儀字五十一

愛知縣

維新の志は此の如く可憐なるに  
名有るは此の如く可憐なるに  
作られたるを知るは此の如く

副長

浅野子八

嘉州行末代

古名田居在

口本

才一大區六小區  
三丁目八番地  
安友野波

安友野波

安友野波

三十二年四月

示正區附屋下三丁目  
居勢課附三丁目

村井淡水

一二三又余程是名  
ハハ何ニモヨリキ  
ハハ何ニモヨリキ  
ハハ何ニモヨリキ

發 縣

二十七年五月

六小區生田三丁目  
二小區留吉母

きつく

二十七年七月

六小區古出東小町農  
亦お子屋中長女

きつ子

二十七年五月

安有難波妻

あき

二十九年五月

但長

山本和之丞

二十九年四月

別三長

浅野子八

二十九年五月

二三又余權免  
ハハ何ニモ  
ヨリキ  
由ッ中  
通知  
第ニ  
五

發 和 縣

義川修之書代

山口内住九郎

二十三年二月

右申一口

本月廿四日午後八時以  
當分家下次三夫區春日井  
麗二小區移お住亦おまは

与右系孫龜致ふる旨申拜  
名付此等為の段々名又羽之十  
与の之是病氣未方紀り名名沙  
河村井淡水也頼之珍系  
之と腹其あるる由了了一併之并  
抱入差添之と美良生も一取計  
名相有終之と名付一死去仕名  
あつ併申上り名付りの名指視

一二三又余程是名由の中は中余程三  
ハカ何ニモ口口キ名字の通名と名字五十一

發 四 縣

一 緞襪生年如素心所集之其性也  
一 誓由之生身及難皮申之上  
之向像奪月日甲之日止居  
下所任之良數有之其日就記出  
不申一之付九所以下女さささ  
あ紀中一之有之其解一之好  
居又知一之有之其呼記一之兵同  
ク之解一之有之其解一之取敢

位所上之有之其解一之好  
知一之有之其解一之好  
由日お割一之長一之申紙一之有  
其候一之有之其解一之好  
村井淡水一之珍一之有之其解一之好  
業同一之有之其解一之好  
ち中一之有之其解一之好  
昨一之有之其解一之好

一二三又余一握是免知一由一之申一之好一之有  
ハ何一之毛一之口一之キ一之毒一之字一之通一之知一之好一之有  
一五十一

愛知縣



初人 一ツリ甚トリクハワ下甘き  
尚人 一ツリ甚トリクハワ下甘き  
其ト甲斐又ナリ終ニ死去ハ  
一村井溪水中上ニ本丹可也  
ナカヤカハ始ニ安在難波方  
止ルニ内ニ初人 一ツリ甚トリクハワ下甘き  
更ニ申出リテ王ニ紙診  
カホヒリクハワ下甘き一痺状言

詔不能ハ甘甘甘甘甘  
一ツ抱人 一ツ抱人 一ツ抱人  
尚人 一ツ抱人 一ツ抱人 一ツ抱人  
体ニクハワ下甘き終ニ龍脈ニ至リ申  
一ツ抱人 一ツ抱人 一ツ抱人  
夜十時頃止ル人 一ツ抱人 一ツ抱人  
一ツ抱人 一ツ抱人 一ツ抱人

一三三又余程免知ッ由ッ申出ルハ余程ニテ  
ハカ何ニモワリキ 毒字ヲ通知ニテ毒字ニテ

病人 亦守り業團ホオアキ年  
富いし 是を右に言ふ昨五六日  
午未七の時を向うテリ事  
甚し一際難渋あるは男下  
女きよ 呼寄り共く介抱仕  
處終て老云に  
一 下女きよ 上は皆人き向  
る中人物集るをきく 申す

初め信介抱 海舟り私其座  
不指合は 共昨五六日未  
方七時より 声お知すは際  
きく 命之を言ふに 二階へ上り  
共く介抱は けれ言合ふ通  
言 終て 死を仕 終入る  
こゝろの 報ふに  
一 妻海舟 申上は 向本舟は 申す

二三又余 握免 知つ由 申す 申す 第 二 三  
ハ何ニモ 口口ニキ 毒字 通 知 之 毒 字 五 十

發 和 係

より此處より多きもの物氣をいす  
るも富むるも夫の盲人の如く人  
かりて一歩の途に抱きあはれ  
仁信ましく、上美生の方石子信也  
まじりて又此の六の白きところや七の  
るに病人をいふなり其にりあは  
い際二階より下をきこむり呼り  
就玉の上り暫時に抱きあはれ

多敷に云ふに方りの名をい入

中

一但長し本和志中上止る  
人ま尚物免はらふあゆみ及む  
不取敢馳を自らまてあまき甲  
上り通甲斐次人路に施  
縁仕和懐及風物不兼申也  
一割牙長浅車物子八差在川

一二三又余程多きもの物氣をいす  
ハハ何ニモ口口エキ甚字の通知と云ふ  
程ニテ

四 係

作之楽代吉田氏が中上  
 戸主安多孫難波増河村井  
 淡水少抱入きく初ノ末  
 中上は其の事より向止戸  
 病老より雨戸自早速  
 紙一見仕は古殿一回  
 中上は通  
 多為、怪気及風等ホ一切  
 養り不申一有一回

お是る申上りの

明治七年三月九日

安多難波  
 村井淡水  
 小崎まぐ  
 木おまよ  
 安多あま



一二三又余程是  
 何二毛口口口  
 口口口口口口  
 口口口口口口  
 口口口口口口  
 口口口口口口  
 口口口口口口  
 口口口口口口  
 口口口口口口  
 口口口口口口

安多難波  
 村井淡水

但長

山本和彦



副長

浅井多八



美川修三郎代

左 岡屋兵衛



石上知縣市出役

十三年八月廿五日

一二三又余權免知由中知事余權三  
ハル何ニモヨリキ表字リ通知ニ表字五十一

後知縣

求刑書結案草

明治九年四月一日三河國岡豆郡鶴ヶ池村  
副戸長岡田久吉告許二曰昨夜盜賊  
忍入土藏器壁切破り衣類取立六十六  
六品紛失庫内散乱之趣キ西尾第十六  
巡查也靈ト許出ルニ所現場ニ出張夫々  
探搜候ニ靈同邸ニ居住山本彌市先般  
竊盜之科因テ懲役相成現今赦免無産  
漂行ノ者ニテ全リ彼ノ所音息ノ見入有之  
相 候 儘 身 証 知 廉 無 之 以 上 尚

ハ何ニモヨリキ 爲字リ通 知 爲 子 五 十

發 知 縣



調書

三河國幡豆郡鶴ヶ池村

曹農

竊盜ニ犯

山本彌市

四月二十日探復捕縛

九年四月二十三日 四十一

自分儀明治八年五月竊盜之科より即捕  
押相成修慶元年二月十三日即放免其後  
西尾追羽新所大工職ニ在り儀助ニ罷在候

ハハ何ニモヨリエキ 是字リ通知ニヨリ各字五十一

後 四 係





金五匁同 質入申候

一 黒呂羽織

七匁 枚

是 小月一日同所 玄綾浅井改 金五匁同

質入申候

一 唐棧縦縞廣袖絆天

七匁 枚

一 黒十、工水紋裾廻し綿入

七匁 枚

一 越後結城千竹節綿入

七匁 枚

是 小月一日西尾天王町中村喜十 金

三四七十五匁 質入申候

一 友物

七匁 及

是 同日同人 金五匁 質入申候

一 女貞 入申候 金五匁 質入申候

一 木綿 紺糸縞 俵入伴纏

七匁 枚

石小月年二月十日夜 幡豆那 上今川村居位

中村又重宅之 忍入 表類 若干 取出候 露

方主之 覚初 計り 之 見 之 且 之 息 不 逆

外 衣 現 場 打 院 前 是 而 已 盜 賊 西 尾

追 羽 新 田 忠 治 相 頼 同 所 天 王 町

中 村 喜 十 二 重 金 五 七 十 五 匁 質 入 申 候

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十

金工同 質入申候

一 黒黒呂服羽織

壹 枚

是 小月一日同所 玄綾浅井改 金工同

質入申候

一 唐棧縦縞廣袖絆天

壹 枚

一 黒十、工水紋裾廻し綿入

壹 枚

一 越後結城千竹助綿入

壹 枚

是 小月一日西尾天王町中村喜十 金

三四七十五 質入申候

一 友物

壹 及

是 同日同人 金五十 質入申候

一 女鳥合羽

壹 枚

一 木綿紺糸縞俵入伴纏

壹 枚

石小月年二月十日夜 幡豆那 上今川村居位

中村又重宅に 忍入 表類 若干 取出候 露

方主之 覚初 計り 之見 之且 之息 之不 逆

外 衣 現 場 打 控 前 是 而 已 盜 賊 兩 尾

追 羽 新 田 忠 治 相 頼 同 所 天 王 町

中 村 喜 口 二 重 金 七 十 五 質 入 申 候

ハハ何ニモヨリキ 是字リ通 知リ 各字 五十一

是 一 結 是 四 月

壹枚

金壹圓

壹枚

壹枚

壹枚

半一一金

壹及

男入申候

壹枚

壹枚

今川村居住

取出候重

三尾

所天王町

所又入

口係

係

是 一結城紺地水色縦巾横二浮織袴  
是四月六日田人より金七十五匁所又入

十一  
壹枚



西尾藩の古子湯色堂屋尾海市の詐  
 稱と今各岡崎の尾の懸子尾の所を  
 古子加買入り身斬り候旨を御書  
 相申候事。此より後とも色作御書取  
 取り候事

原土口書

忠次郎

明治九年四月二日三河國 幡豆郡  
 鶉ヶ池郡 居住山中彌市 此劫盗二犯  
 之利より多捕縛 尋問之末 客月二  
 一日同村割之長岡田久吉を藏斬  
 衣類六十人用品竊取之内 五品西尾  
 追羽新所大田忠次郎 明家半植  
 一に盗し置候旨申 而路スニリ直ニ  
 出張吏より取糾 候而全全忠次郎之  
 日亦月日不覚 同事ニテ空家ニ至

二三  
 二五  
 八五  
 九五  
 五十五  
 五十五  
 五十五



改ノ候家無因縁場所全ク盜賊之潛  
 匿品方心所ノ候間一考近估之者ハ相談致  
 引續キ御由可仁善口御座候處不圖  
 悪心差起リ当夜竊ニ全品取出シ前奈  
 近隣之者ハハ紛失候旨程能ク流  
 石田等物ハ後三月ハ作ラレ候

一衣類

是ハ西尾新屋敷石田喜助ハ相頼

金三四二申候

一女給

壹枚

一女帯

壹枚

右ハ追羽新所中根高三郎妻ト内相頼  
 中所王浦屋ハ金壹圓廿五ノ質入申候

一半纏

壹枚

一鳥

壹枚

是ハ鶴ヶ池村山本彌市ハ所買入呉候  
 様被頼同トハ抱シ天王所中村屋嘉十  
 七十七ノ由ハ高見遣シ候處今取御用之上  
 賄物之由承知仁候

一二三又金程是ハ由ハ中ハ係  
 ハハ何ニモワキモ字リ通知シ  
 係





浪行江左地至大工持果園  
 嶽中平全區海島何上七滿  
 常之北路之古多此夏國之  
 廣子園下中甲標長代理  
 六亦教多ナル位之甲中標  
 多亦多也後之國義能生格  
 一尾裁也存只也多福  
 三國昇子中三標多格地り  
 七七高島同部直一曰多勿果  
 備一信處居十印到席一

月乃橋ア此ハ日最早より十  
 時下下是之茲ハ此ナリ大ナリ  
 初問リ調く懐とナモウ箱箱然  
 トシテ暗音街内ハ橋ハ津次  
 畢ニ引結々中一ニ四課長也  
 二三課等ハ儀儀也中三教  
 中四全治院同之反多也中五  
 橋多可也中六未油多也中長  
 七新成多也中各各自祝解  
 乙次ハ古多張也中各二階ハ

一二三...  
 ハハ何ニモ...  
 一ニ三...  
 ハハ何ニモ...  
 一ニ三...

ちあきしつ々アハル 毒信ノ投解 礼  
上ニ推コナス各 於アハル 壺ヲシテ  
投與スル 案リ 集ク人 氏ノ甲  
乙西ニ運 帝御ニテ 於ク形 執カ 面白  
リイト 日出ヲカリ 天 大キ 証 友ハ 此  
ニ 勤 執カリ 祝テ キテ 熱ト 賀クニ 終  
フト づ 斯ル 盡 興ニ 濟ニ 再ニ 宗 橋  
ニ 於ク 包ラレ 間ナリ 酒者 搦 礼ニ 供ス  
酬 高ニ 益ニ 究キテ 次第 生 盡ナルヲ 信  
ス 大キ 地 尊ハ 各 於コ アニ 查ニ 自 登

アリテ 成るヲ 勢ノ 勢ノ 廟ヲ 示サレ  
子 區 妻の 多クハ 聖カ 祭ト 一 信入  
子ハ 協 殺ヲ 親ク 誦 寺アリテ  
クハ 伊ラウ 此 大キ 此ナ 固シ 固シ  
アリヨリ

一二三 念ノ 積 多ク 名ヲ 注ッ 申シ 成 事 第 二 程ニテ  
ハ 何ニモ 凡ク 也キ 甚 字ヲ 通 知ニ 於キ 五ナリ

後 口 係

Blank page with red horizontal lines for writing.

臣 事

御 出 給 上 願 旨 候 申 上  
 御 出 給 上 願 旨 候 申 上  
 御 出 給 上 願 旨 候 申 上

臣 事  
 御 出 給 上 願 旨 候 申 上  
 御 出 給 上 願 旨 候 申 上

一二三... 御 出 給 上 願 旨 候 申 上  
 一二三... 御 出 給 上 願 旨 候 申 上  
 一二三... 御 出 給 上 願 旨 候 申 上

受 口 係

三田 外馬  
三田 外馬  
三田 外馬

大書記官  
圖書室

第四課長一筆警部  
代理六筆警部  
小倉信正

一 國部直道  
豐 縣七筆警部  
豐 縣十筆警部

花  
臺

祝  
文  
臺

第一區 別文長  
第二區 別文長  
第三區 別文長  
第四區 別文長  
第五區 別文長  
第六區 別文長  
第七區 別文長  
第八區 別文長  
第九區 別文長  
第十區 別文長  
第十一區 別文長  
第十二區 別文長  
第十三區 別文長  
第十四區 別文長  
第十五區 別文長  
第十六區 別文長  
第十七區 別文長  
第十八區 別文長  
第十九區 別文長  
第二十區 別文長  
第二十一區 別文長  
第二十二區 別文長  
第二十三區 別文長  
第二十四區 別文長  
第二十五區 別文長  
第二十六區 別文長  
第二十七區 別文長  
第二十八區 別文長  
第二十九區 別文長  
第三十區 別文長  
第三十一區 別文長  
第三十二區 別文長  
第三十三區 別文長  
第三十四區 別文長  
第三十五區 別文長  
第三十六區 別文長  
第三十七區 別文長  
第三十八區 別文長  
第三十九區 別文長  
第四十區 別文長  
第四十一區 別文長  
第四十二區 別文長  
第四十三區 別文長  
第四十四區 別文長  
第四十五區 別文長  
第四十六區 別文長  
第四十七區 別文長  
第四十八區 別文長  
第四十九區 別文長  
第五十區 別文長  
第五十一區 別文長  
第五十二區 別文長  
第五十三區 別文長  
第五十四區 別文長  
第五十五區 別文長  
第五十六區 別文長  
第五十七區 別文長  
第五十八區 別文長  
第五十九區 別文長  
第六十區 別文長  
第六十一區 別文長  
第六十二區 別文長  
第六十三區 別文長  
第六十四區 別文長  
第六十五區 別文長  
第六十六區 別文長  
第六十七區 別文長  
第六十八區 別文長  
第六十九區 別文長  
第七十區 別文長  
第七十一區 別文長  
第七十二區 別文長  
第七十三區 別文長  
第七十四區 別文長  
第七十五區 別文長  
第七十六區 別文長  
第七十七區 別文長  
第七十八區 別文長  
第七十九區 別文長  
第八十區 別文長  
第八十一區 別文長  
第八十二區 別文長  
第八十三區 別文長  
第八十四區 別文長  
第八十五區 別文長  
第八十六區 別文長  
第八十七區 別文長  
第八十八區 別文長  
第八十九區 別文長  
第九十區 別文長  
第九十一區 別文長  
第九十二區 別文長  
第九十三區 別文長  
第九十四區 別文長  
第九十五區 別文長  
第九十六區 別文長  
第九十七區 別文長  
第九十八區 別文長  
第九十九區 別文長  
第一百區 別文長

豐橋警察署署長  
四筆警部秋沢弘以  
八筆警部塩田義雄  
豐橋警察署署長  
十筆警部百葉悺次郎  
全 市首 貫一  
街田分署長  
全 近藤 京六  
新城分署長  
全 方田規矩輔  
西路分署長  
全 鶴田嘉魚太  
豐橋警察署署長  
一等巡查宮田時中  
全 島田保寿  
二等巡查小泉秀男  
台分署署長代理  
二等巡查小笠原綱紀  
全 中村 東京  
全 長沢 東京  
全 浅野群造  
全 葛中敏次郎  
曲里橋警察署署長  
四筆巡查木下光男  
全 松小光藏  
全 鳥居修成  
全 間野 全  
因檢詰二亦守幸一  
青木愛三  
因檢詰  
鈴木元倫

所





明治十年二月十一日 高知縣大書記官從六位團貞原平

祝詞

良民ヲ保全ニ先思フ懲戒之各戸其業ニ安ニシ  
聖朝ノ德澤ニ沐浴セシムルハ即チ警署ノ任ナリ其事ヲ  
ルニ先大ナラヌヤ茲ニ由是舊警署ノ築  
修補全リ成リ是ヨリ益保護ノ術ヲ施  
シレントス抑施工ノ始ヲ願ルニ小  
官等敢テ旋切ニ日ヲ期ラスト云

工職等平素看護ノ篤ニ感ニ各自  
一勵精速ニ木日移廳ノ盛式ヲ行ハ  
ルニシ得ル官民ノ慶和何ソ之ニ若  
クイアラニ哉敢テ祝ス  
明治十年二月十一日 第三課警署 結 無

祝詞

豐橋警署築修擢成ニ本日ヨリ以テ開廳  
ノ式ヲ行フ抑預署ハ四罷五區ヲ全  
管ニ之ニ屬スルニハ分署ヲ以テ其區域

一ニエ又警署  
ハ何ニモヨリ  
キ  
由  
中  
中  
第  
十  
一  
日  
ハ  
一  
日  
ハ  
一  
日  
ハ

タル東ハ藩國縣ニ接続ニ北ハ長壽  
 以阜南縣ニ襟帶ニ海山岳延袤數  
 十里ニ直リ就中一木驛、如キハ海  
 道、中夾ニ位ニ楫軸輻湊、每旦ニ縣  
 下東門咽喉ノ地ニシテ事務隨テ多  
 端ナルモ百事一秩然整理セルハ即テ  
 署長以下各員日夜勉勵ノ効ニ依テ  
 サルハナシ北異クハ自今更ニ諸君ト  
 協力黽勉、處勢ノ固ヨリ新ニ保  
 護ノ術ヲ盡シ、管民之産業ニ妥ニ行

行客旅スルニ樂ムノ佳境ニ違レ也  
 一々聊鄙言ヲ陳ハ以テ祝ス  
 明治十一年三月十日 警視總監一等勲章 東屋起平  
 謹而亦日開廳ノ祝辭ヲ陳ス、吏レ  
 警視總監ノ一々タル行政司法ノニ途アリ  
 小室ニ共ニ之レ國家保安ノ任ニシテ  
 人民ニ護衛ノ外ナラス、其責ニ重且  
 大ナリト云ハキナリ、蓋シ本縣長次  
 官夙ニ茲ニ意思アリ、警視總監ノ事務ヲ

一ニ三ニ毎程多ク  
 ハ、何ニモ、口ヲ  
 一ニ三ニ毎程多ク  
 ハ、何ニモ、口ヲ  
 一ニ三ニ毎程多ク  
 ハ、何ニモ、口ヲ



盛大にして以テ國安リ朝之人民保護  
ノ責ニ任セシメ明治十年十月十一日豊  
橋署修繕ノ功ヲ竣ス當ニ閣廳  
式ヲ行フニアタリ親ラ此ニ來會シ  
縣下ノ人民ト共ニ此盛舉ヲ祝ヒ云  
々治民ノ厚意ト云ハケルハケニヤ  
弘以不肖自ラ揣テ幸ニ警部  
ノ任ヲ辱フニ本署ニ從事スルリ  
得タリ斯リ以日夜焦慮一ハ責  
任ノ重ニ報シ一ハ人民保護ノ責

ニ指カサラント然ハ本署ノ所轄ト  
ル其界四郡ノ廣キニ倚リ地  
位ニ京ノ要路ニ接ス故ニ開明  
ノ民アルモ或ハ警部案ノ何ヲレ  
報セス以テ無用視スル者アリ噫  
遺憾ノ至リナラス哉一曰リ開一廉  
ノ盛事ニヨリ以來 上意ノ  
溼キヲ奉ヒ罪勉四郡ノ民ト  
共ニ以テ此惠福ニ頼ラントス

警部案署長四等警部秋原弘以

一二三  
ハ何ニモヨリエキ  
ハ何ニモヨリエキ  
ハ何ニモヨリエキ

○

祝文

我公發蒙之役、けあをて、口於海、  
 と、名との事、習口、改進、其、同  
 大、見、有、き、あり、然、り、と、名、行  
 政、日、法、二、終、あ、の、め、き、事、勢、極  
 の、き、を、終、る、を、重、なる、の、め、一、般、  
 して、其、功、績、を、叙、す、す、  
 不、能、と、名、との、今、日、の、形、況、と、以、て  
 折、白、せ、を、二、三、年、り、之、を、去、る、の、

彼の者、り、り、命、と、對、事、の、地  
 位、と、む、む、の、何、の、難、き、之、あ  
 ら、ん、も、縣、令、身、由、閣、下、日、長、二、赴  
 任、め、と、志、す、り、以、て、大、に、務、を、遂、げ、  
 張、事、勢、の、改、革、志、願、を、遂、げ、  
 志、す、昔、の、同、目、一、派、あり、たり、宣  
 縣、下、人、民、を、平、餘、万、ノ、幸、福、ト、言、と  
 我、公、將、も、今、や、も、終、る、事、勢、を、  
 托、本、県、二、轉、移、志、す、り、  
 大、書、記、を、**國、臣、公、閣、下、親、志、久、東**

一、二、三、又、筆、種、多、く、由、り、中、に、  
 一、二、三、又、筆、種、多、く、由、り、中、に、  
 一、二、三、又、筆、種、多、く、由、り、中、に、  
 一、二、三、又、筆、種、多、く、由、り、中、に、

一、二、三、又、筆、種、多、く、由、り、中、に、  
 一、二、三、又、筆、種、多、く、由、り、中、に、

臨あつて皇業の典中行はれ小皮  
草不肖の儀とて幸に於て皇  
ノ業を承りて列位に盡くつて陪  
多々の我得歡を極りたるに柳  
鄙言我由て祝詞と云

明治十一年十月 奉命知事 松本 啓

治罪係

用 旨 係

若 旨

予カ警察本部 署 衙門 新築 誌リ

定ニ明治十一年十一月十一日ヲ撰ニ開業  
ノ典ヲ執ル臣ホ自身ノ不肖ヲ省ミ  
不徒ニ榻机ヲ未坐ニ双ハ今日ノ  
佳祝ヲ表スルヲ得タリ欣喜ニ耐  
ヘス敢テ同音ヲ以テ之ヲ祝賀ス  
示来ホ本部 擴盛 照耀ト共ニ益々  
行及リ專制ニ弊ニ盜賊ノ憂ナ  
リ市ニ凍饑ノ民ナリ各自 安寧  
ノ基ヲ開キ 其業ヲ以テ  
朝詔ノ一カ一ヲニ報ニ聊カ新臣ノ

一二三又 奉命知事 松本 啓  
ハの何ニモヨリキ 奉命知事 松本 啓  
ハの何ニモヨリキ 奉命知事 松本 啓



後亦列朝日燕坐采日外留明治西  
十年十止一月十止一日也此署遠聞  
喜給以氣禮於奉祝志天  
盛席已開從今日民物愧無懶  
山堂百字

新城不署長

十廿等望神方因規矩輔謹祝

管分名譽後望不署長、終業

二若子斧親ヲ操りといひ明治十  
年八月二旬子箱一五八余り  
經官莊、一度ヲ移切矣 押  
此署ノ管轄ヲ凡三子何國東門  
官所編定後亦ハ此ノ四即ヲ  
統り内ニハ支ノ多署ヲ設ケ  
却是為四五子多邑ノ多アヲ  
保復ス一厥位置各即ノ中  
央即ヲ備置即ニ是ヲ移取本  
街ニ移一願之人民、保利

一二三又毎程多  
ハ何ニモヨクキ  
由中  
通  
知  
之  
為  
字  
五  
十

可得也... 宣... 偉大... 良地...  
 言... 八... 裁... 今... 那... 那... 降... 如... 慈...  
 生... 之... 起... 向... 之... 之... 降... 如... 慈...  
 就... 之... 加... 之... 愈... 行... 政... 司... 法... 如...  
 率... 車... 之... 兩... 箇... 之... 將... 之... 判... 然...  
 皇... 張... 之... 下... 中... 之... 間... 業... 之...  
 或... 列... 之... 車... 之... 下... 素... 之... 辰... 之... 僅... 稅...

明... 崇... 格... 之... 多... 累... 而... 油... 之... 四... 之... 長...  
 明... 崇... 格... 之... 多... 累... 而... 油... 之... 四... 之... 長...

奇音... 師... 師... 師...

第十一大... 慶... 示... 區... 之... 日... 村...

平... 德... 念... 我... 國... 考... 子...

德... 念... 充... 極...

九... 月... 四... 日... 四... 日...

古... 者... 文... 之... 禮... 寫... 一... 筆... 之... 以... 以... 以...  
 其... 身... 之... 中... 之... 有... 法... 也... 出... 此... 以... 誠... 檢...  
 於... 之... 如... 身... 之... 中... 之... 有... 法... 也... 出... 此... 以... 誠... 檢...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

發... 係...

世を人の心の中にお返しなり書に於て又  
義ある言は道に背かざる事奇音に  
なる女子は道徳體の所依なりと云ふ  
書籍の所行をば汝の賜に則

河野人言寫

徳念克徳

之方儀幼雅にして文學の如く  
急情の音に換型トナリテ也

凡庸の如く殊緒の事は依  
勸善の刻を以てし事

愛知縣

方は道徳の如く凡庸の如く  
高村の如く文字の如く  
居るは如く凡庸の如く  
此の如く凡庸の如く

明治六年十月一日

一二三又...  
ハの何ニモ...  
ハの何ニモ...  
ハの何ニモ...

愛知縣

森

良

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

第六十六号

御中

大庭御長

本侯御平





愛

白

見

疑

權

紅



愛





康申予境内、直る所ノ境アリ  
京に降して、江ノ下、一也、老任兵、邑直る所

背、寛政二年、己未、十月、十二日、連之

多、予、の、境、お、ろ、を、ま、の、由、一、着、久、  
問、ま、れ、ま、あ、る、徳、ナ、リ、ト、る、所、ハ、  
地、ナ、リ、ま、あ、る、お、ろ、を、ま、の、由、一、着、久、

此、祝、之、后、の、村、道、通、り、こ、出、ま、る、お、ろ、を、ま、の、由、一、着、久、

是、り、予、の、境、お、ろ、を、ま、の、由、一、着、久、

勝、野、水、林、ノ、丹、草、多、一、見、向、お、り、ま、の、由、一、着、久、

見、ハ、病、舎、ナ、リ、ま、の、由、一、着、久、

ナ、リ、ま、の、由、一、着、久、

日、下、ノ、味、  
エ、タ、リ、ハ、カ、ノ、谷、川、ニ、テ、採、り、  
お、ろ、を、ま、あ、る、お、ろ、を、ま、の、由、一、着、久、

キ、副、ノ、名、ナ、リ、ま、の、由、一、着、久、

リ、あ、る、向、お、り、ま、の、由、一、着、久、

大塚、瓦、道  
下、保、具、お  
向、お、り、ま  
永、江、は  
永、江、は  
永、江、は

飯、原、リ、マ、の、由、一、着、久、

午、后、ノ、夕、方、の、由、一、着、久、

テ、ま、の、由、一、着、久、

ノ、馬、鞍、が、ガ、ル、ナ、リ、中、等、マ、リ、  
第、一、馬、鞍、  
向、レ、ト、馬、鞍、  
ト、リ、今、其、威、  
エ、馬、ノ、由、一、着、久、

十、甲、の、由、一、着、久、

事、一、の、由、一、着、久、

こ、ま、の、由、一、着、久、

り、り、の、由、一、着、久、

西、山、ノ、由、一、着、久、

ハ、山、ノ、由、一、着、久、

十、甲、の、由、一、着、久、

見、國、ノ、由、一、着、久、

信、務、ノ、由、一、着、久、

正、年、  
北、  
系



石山向うの山に凡の地勢が存する所  
 以て此の山に凡の地勢が存する所  
 名に凡の山に凡の地勢が存する所  
 今より凡の山に凡の地勢が存する所  
 うの山に凡の地勢が存する所  
 白く凡の山に凡の地勢が存する所

五日 下るる山に凡の地勢が存する所  
 凡の山に凡の地勢が存する所

いづこの

凡の山に凡の地勢が存する所

敬言宗録事 七月一日

三河國額田郡坂崎村

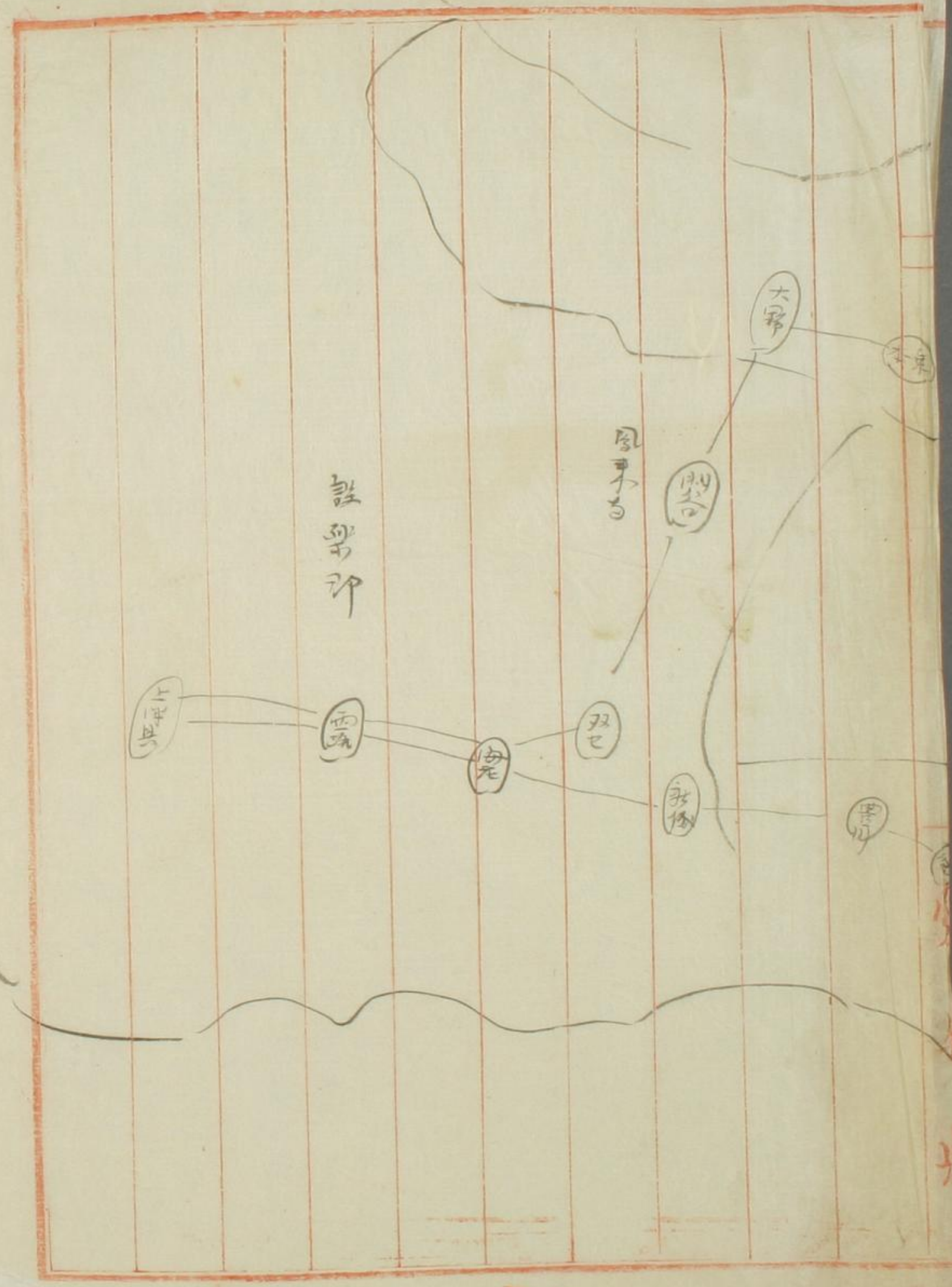
千々物長男

佐 亦 兼 左

其の右儀母之病没之父母之病之罹り  
 昔の如く難叶の如く収りて其の罹り  
 之ト云ふを家系を分るるに之を  
 之例を以て一層其の苦役を以て  
 之を以て其の苦役を以て其の罹り  
 之病同り親七原田郡に出生は其の罹り

定如系

Handwritten notes at the top of the right page, partially obscured by a piece of paper.



敬言祭録事 七月一日

三河國額田郡坂崎村

千々物長男

紙亦弟名

Main body of handwritten text in vertical columns, detailing the '敬言祭' (Kōgen Matsuri) ceremony. The text includes names and descriptions of the event.

石山  
比  
名  
う  
あ

第ノ拾七 禁中ノ以テ是ノ天ヲ凌カ  
スルヲ或人 憐ヲ 然ルニ 然ルニトス  
然ルニ 君裁アレハ 終ニ 他人ノ存  
考地ニ 智入ノ 念ヲ 生セシメテ 計リ  
難シトテ 固辭セテ 不受 等 不後  
レ 佛心着レ 彼ニ 至 盡 自ラ 死ニ 物  
術 次 快 意 之 至リ 爾 後 親 子 相  
俾ニ 年 別ニ 羊 履ヲ 俵ニ 糊ニ  
生 計ニ 活ム 其 方 存 善 且 之 以テ 不 愛  
ニ 十 方 余 年 御 堂 志 其 平ニ 出 典 典 竟

夢 矢 果

それ、玉にまじりて 持て 尊に 之 信 仍  
る 乃 之 出 典 典 志 其 平ニ 出 典 典 竟

明治九年七月一日 愛 志 其 平

第 十一 石 山 二 区 一

幡豆 郡 地 所 村 志 其 平

山 下 立 信 志 其 平

其 乃 儀 志 其 平 四 月 一 日 存 同 之 付  
亦 出 乃 之 出 典 典 志 其 平 他 出 之 志 其 平

愛 志 其 平



石の向  
以て  
名  
う  
あ

其疏に二城刃入り、疏に是れを採  
在集とて去うこと欲たに際隔一毫に  
二城ノ周立年一遊走スレテ直に也  
疏に終に其一城ヲ揮發とシテ  
ノ之等とシテ空ニ回外一確に列  
タレ下は行々行々由は諸  
ノ行爲は其の意を五下下下  
明はれ年七月一

管 知 縣

六月二十四日

三河國加茂郡赤土村  
水野定三長女  
名 籠 下 婿  
傷受人

但咽喉に例に長き寸深り  
ア下下長き寸深りニ下下  
小指指に切ル四寸寸長き寸  
冠 二寸極子

後 如 係

石の向  
以て  
名  
う  
あ

昔は三月の四の辰に  
テ之れり  
ヨリ  
トあ  
底  
柄  
確  
ル  
大

け  
あ  
以  
者  
コ  
ヨ  
喉  
之  
砌  
等

口系

石山向  
以手  
者  
金  
う  
あ

撰  
集  
の  
目  
録  
一  
冊  
二  
冊

愛  
知  
県

七月  
二  
日

第十  
七  
日  
尾  
下  
區  
岡  
崎  
町  
前  
の  
河

二  
番  
十  
勝  
田  
橋  
六  
段  
御  
所  
借  
地

二  
指  
お  
後  
多  
山  
海  
吉  
舟

か  
り

九年  
七月  
二十  
七日

右  
の  
月  
二  
日  
の  
事  
は  
十  
日  
迄  
當  
地  
陸  
軍  
官  
署

山  
中  
字  
丸  
山  
下  
町  
三  
丁  
の  
水  
死  
一  
丁  
の  
事  
は  
出  
発

お  
の  
り  
の  
事  
は  
別  
紙  
に  
記  
載  
す

